

竹中コーポレートレポート2014

Corporate Report 2014



サステナブル社会の実現を目指して当社グループが推し進める事業と取り組みを、コーポレートレポートやWEBでステークホルダーの皆様にお伝えします。

■ 編集方針

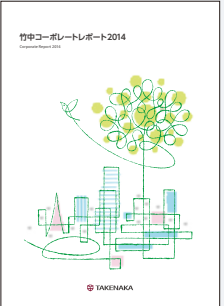
「竹中コーポレートレポート2014」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBサイトに掲載しています。これまで発行していた会社案内（事業概要紹介）とサステナビリティレポート（CSR活動報告）を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行します。

企業WEBサイト
(日本語版／英語版)
www.takenaka.co.jp

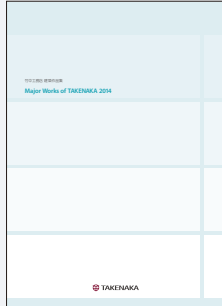


- 建築作品
- ソリューション
- 会社情報
- CSR情報 など

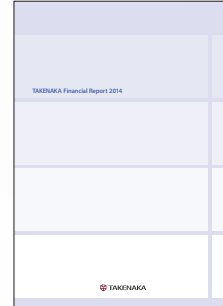
企業パンフレット(日本語版／英語版)



コーポレートレポート
(日本語版／英語版)



建築作品集
(和・英併記)



Financial Report
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。
※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

■ 報告対象期間
2013年1月～2013年12月
当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲
竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン
環境省の「環境報告ガイドライン2012年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000 社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行
2014年4月(次回発行予定2015年4月)
なお、より多くの皆様にお読みいただけるよう、WEBサイトでも公開しています。

■ お問い合わせ先
広報部 03-6810-5140

CONTENTS

- 03 トップメッセージ
- 05 会社・グループ概要
- 07 竹中の歩み
- 09 グループCSRビジョン



11 グループ成長戦略

13 特集1 それぞれの想いを結集し、日本一に挑む ーあべのハルカス 300mへのチャレンジー

特集2 2050年に向けた環境への取り組み ー環境コンセプト 改定ー

17 事業活動

- 19 建築 — お客様の想いをかたちに
- 23 海外 — お客様のグローバルな展開をサポート
- 25 開発 — 都市・地域再生
- 27 エンジニアリング — 最先端のソリューション
- 29 グループ — 国内主要グループ会社
- 30 技術開発 — 先端技術の創出



31 ステークホルダーとともに

- 33 地球環境 — 美しい地球を未来に遺す
- 35 地域社会 — 地域社会の持続的発展に寄与する
- 37 お客様 — お客様の事業の発展に貢献する
- 39 従業員・協力会社 — 事業にかかわる人々とともに成長する



- 41 マネジメント
- 43 グループ会社
- 45 ステークホルダー・ダイアログ
- 46 第三者意見
- 47 主な外部表彰
- 48 今後の活動計画

49 財務・非財務ハイライト



サステナブル社会の実現に向けて

東日本大震災は発生から3年が経過しますが、被災地ではいまなお多くの方々が、たいへん厳しい生活を余儀なくされています。私たちは、復旧・復興に向けた取り組みを着実に遂行し、地震や津波、台風や集中豪雨といった自然の脅威から人々の生活や経済活動を守り、より豊かで明るく暮らせるサステナブルな社会を実現するという使命を担っています。

当社は建築の全ての工程で「ものづくり」を大切に、携わった建物を「作品」と呼んでいます。「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念、「正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし」を冒頭に掲げる社是のもと、創立以来、時代や社会が要請する建築を提供してきました。今後とも私たちは、大震災からの復旧・復興に尽力することは言うまでもなく、環境と調和し、人々が安全に安心して暮らすためのまちづくりに、最良の技術を提供することによって、CSRを果たしていきたいと思ひます。

2014年4月
取締役会長 CEO

竹中 統一



豊かで安心な「まちづくり」

私たち建設業に対する社会の期待は、いま大きく変化しつつあります。震災復興やエネルギー・環境問題など社会的課題の解決、東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機とした魅力あるまちづくりへの対応、世界中の都市・インフラの整備や企業活動の発展などに対し、私たち竹中グループはグローバルなスケールで持てる力を十分に発揮することが求められています。

まちのあり方が多様化する中で、人々が安全安心で豊かに暮らせるまちづくりをしていくために、建物に求められる機能は更に高度化、複雑化しています。環境への配慮はもちろん、健康で快適な空間づくり、幸せや喜び、育みといった「人への優しさ」という視点も重要になってきています。

本年より「竹中グループCSRビジョン」と「竹中グループメッセージ」を制定しました。ステークホルダーとの対話をより一層深め、「まちづくり」を通して、社会とお客様にグループ全員の力でサステナブル社会の実現に貢献する活動を推進してまいります。

2014年4月
取締役社長 COO

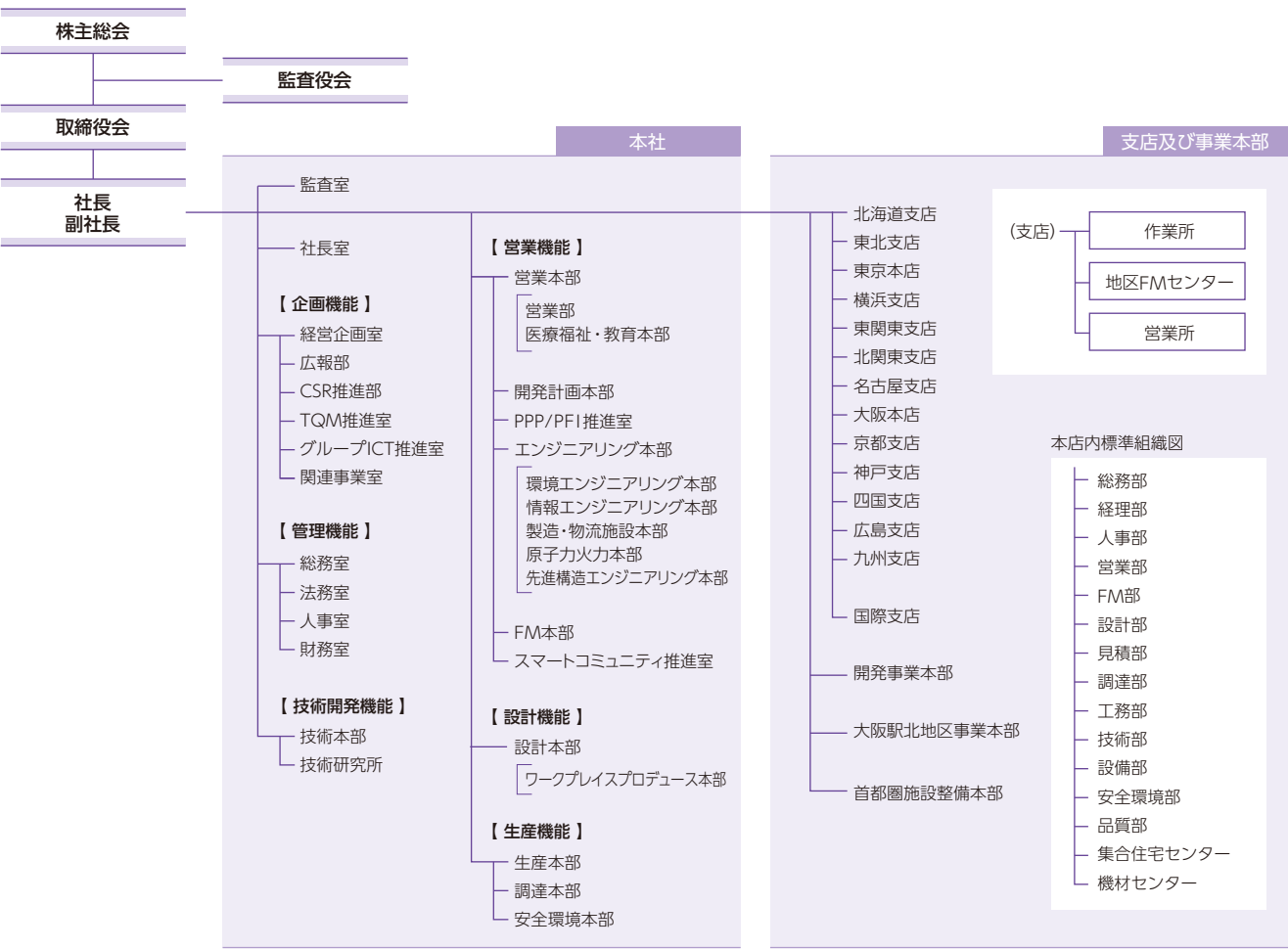
宮下 正裕

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中工務店 会社概要

社名	株式会社 竹中工務店	事業内容	1.建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理 2.建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント 3.土地の造成並びに住宅の建設 4.不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他
本社所在地	大阪市中央区本町4-1-13	取引銀行	三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ銀行 りそな銀行 三菱UFJ信託銀行 三井住友信託銀行 他
資本金	500億円(2014年3月現在)		
売上高	1兆209億円(2013年度連結)		
建設業許可番号	国土交通大臣許可 (特-21、般-21)第2744号		
従業員数	7,335名(2014年1月現在)		
資格者数	1級建築士 ……………2,551 1級建築施工管理技士 ………2,276 技術士……………153 博士……………114 (2014年1月現在)		

組織図 (2014年4月現在)



国内主要グループ会社 事業内容

海外主要グループ会社を含めた拠点はP24に記載しています

建設事業

株式会社 竹中土木

◆ 土木工事

株式会社 竹中道路

◆ 道路舗装工事及び舗装資材の製造・販売

株式会社 朝日ビルド

◆ 鉄筋工事及び型枠工事

株式会社 東京朝日ビルド

◆ 鉄筋工事及び型枠工事

株式会社 TAKイーヴァック

◆ 電気・給排水衛生・空調設備工事

株式会社 TAKリビング

◆ 木製品の製造・販売及び内装・インテリア工事

株式会社 朝日興産

◆ 内・外装工事を主とした工事、建設資材の販売、造園、植樹、緑化の企画・施工、石油製品の販売

マネジメント・エンジニアリング事業

株式会社 アサヒファシリティズ

◆ 不動産の管理、損害保険代理及びリース業務

株式会社 TAKシステムズ

◆ 建築の設計・施工に関するCAD業務並びにコンサルティング

株式会社 TAKエンジニアリング

◆ 建築工事に伴うエンジニアリング・マネジメント業務の受託、人材派遣業務、人材紹介業務

株式会社 TAK-QS

◆ 建築工事に伴う積算業務の受託

株式会社 クリエイト・ライフ

◆ 従業員福利厚生及び総務・人事に関する総合業務受託

株式会社 TAKキャピタルサービス

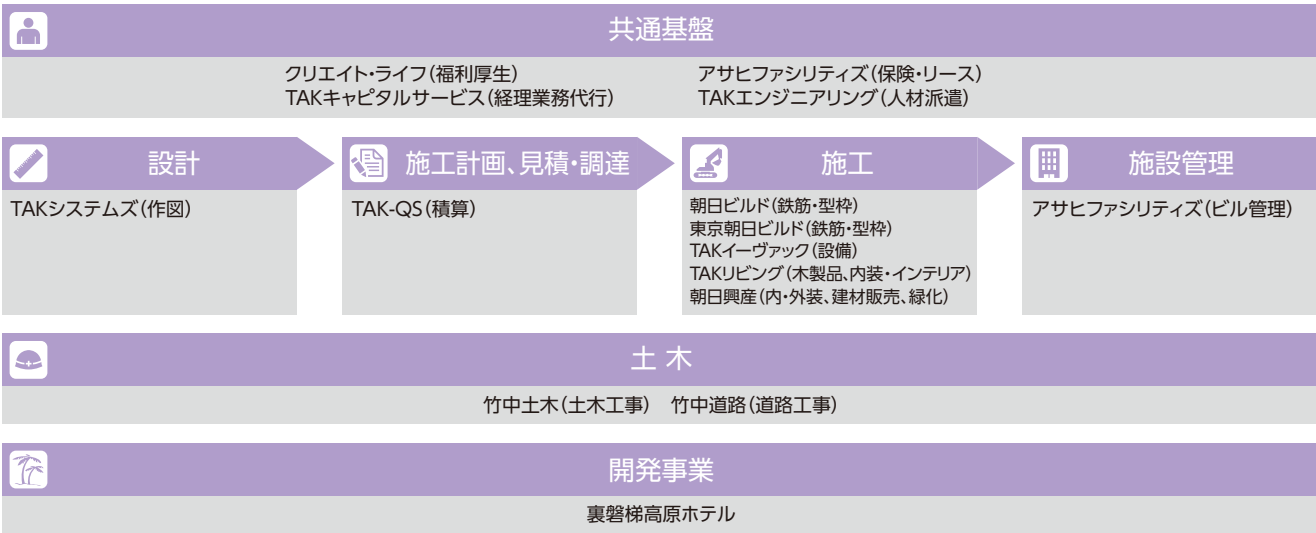
◆ ファクタリングサービス並びに財務会計業務の受託

開発事業

株式会社 裏磐梯高原ホテル

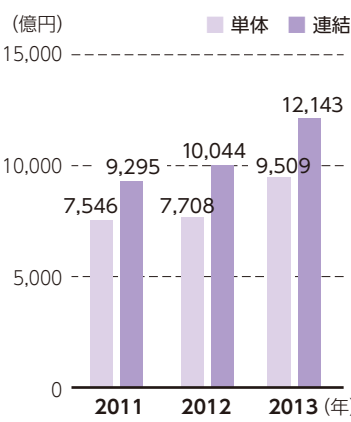
◆ リゾートホテル及びスキー場の運営

主要グループ会社の主な活動

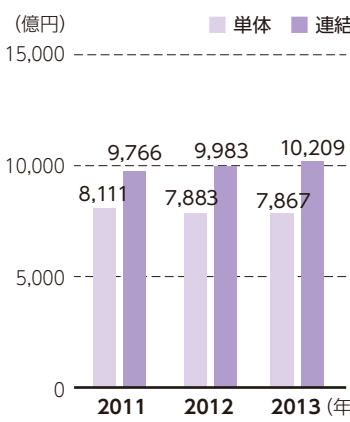


業績の推移

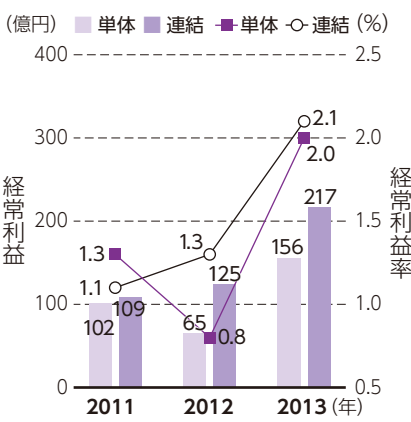
受注高



売上高



経常利益



伝統を受け継ぎ 豊かな未来を拓く

竹中工務店は、1610年（慶長15年）の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる多くの建築物を手掛け社会発展の一翼を担ってきました。建築とは、生命や財産を守る器であると同時に社会の資産であり、その時代の文化を後世に伝え継ぐものである——そうした仕事への誇りを込め、私たちは、携わった建物を「作品」と呼んでいます。これは、宮大工の棟梁だった初代・竹中藤兵衛正高から受け継がれてきた精神で、お客様の想いを第一に考え、建築の専門家として高い技術力を保っていくという考え方です。これまで当社は日本の社会、経済、文化に深くかかわるようなビッグプロジェクトに参画し、数多くの作品やエンジニアリング、技術開発を世に送り出してきました。今後も最良の品質をお届けし、社会の信頼に応え豊かな「まちづくり」を目指し、設計施工一貫方式を進化させ、時代が求める技術開発を積極的に進めていきます。

1610

初代竹中藤兵衛正高 名古屋で創業。
神社仏閣の造営を業とする。



1899年
14代 竹中藤右衛門が神戸に進出、
創立第1年とする。

1897年
三井銀行神戸小野浜倉庫を竣工。

1884年
三井銀行名古屋出張店竣工。

1874年
維新後次第に洋風建築を手掛け、
名古屋鎮台兵舎竣工。



1916年
鉄骨鉄筋コンクリート造の
大阪朝日新聞本社竣工。

1912年
商店建築では日本初の鉄筋
コンクリート造の高島屋京都店竣工。

1920

1950

1949年
株式会社 TAKリビング設立。

1947年
株式会社 朝日ビルド設立。

1943年
株式会社 TAKイーヴァック設立。

1941年
株式会社 竹中土木設立。

1937年
株式会社 竹中工務店設立。
資本金150万円。

1934年
明治生命館
(東京・丸の内)竣工。



1927年
一橋大学兼松講堂竣工。



1970

1969年
株式会社 アサヒファシリティズ設立。



1963年
国立劇場の設計競技において
1等に入選。

1961年
株式会社 竹中道路設立。

1960年
TAKENAKA & ASSOCIATES INC.
をサンフランシスコに設立。

1958年
高さ333mの東京タワーを竣工。
裏磐梯高原ホテル開業。

1957年
南極観測用施設製作。
竹中式潜函工法特許を取得。
株式会社 朝日興産設立。



2000

1997年
ナゴヤドーム竣工。

1995年
株式会社 クリエイト・ライフ設立。



1993年
日本初の屋根開閉式多目的スタジアム・
福岡 ヤフオク!ドーム竣工。

1992年
日本品質管理賞受賞。

1990年
株式会社 TAKシステムズ設立。



1988年
日本初の空気膜構造による
多目的スタジアム・東京ドーム竣工。
竹中錬一会長がデミング賞本賞を受賞。
株式会社 TAKエンジニアリング設立。

1987年
有楽町マリオン竣工。



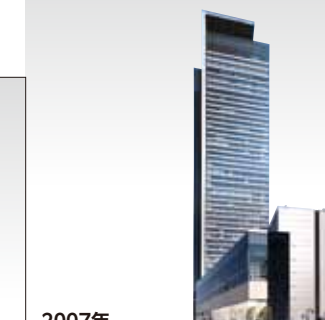
1986年
第二国立劇場の国際設計競技において
最優秀作品に入選。

1979年
竹中工務店を含むASTMグループが
提案した芦屋浜シーサイドタウン竣工。



1972年
株式会社 東京朝日ビルド設立。

2007



2007年
中部地方一の高さを誇る
ミッドランドスクエアが竣工。

東京都心の大型複合施設
東京ミッドタウン、
新丸の内ビルディングが竣工。



2006年
世界一の高さの超高層免震マンション
シティタワー西梅田が竣工。



2003年
株式会社 TAK-QS設立。

2002年
株式会社 TAKキャピタルサービス設立。

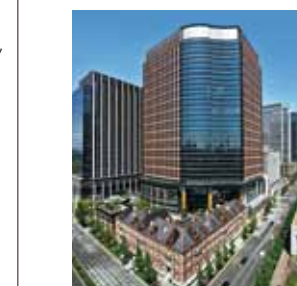
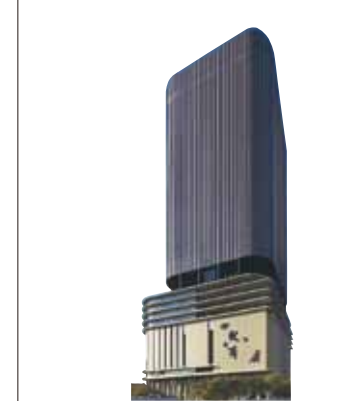
2001年
大分スポーツ公園 大分銀行ドーム、
札幌ドーム「Hiroba」が竣工。



2013

2013年
グランフロント大阪、
あべのハルカスが竣工。

2012年
大阪の超高層ビル
中之島フェスティバルタワーが竣工。



2009年
創立110周年。
三菱一号館の復元及び
丸の内パークビルディングが竣工。



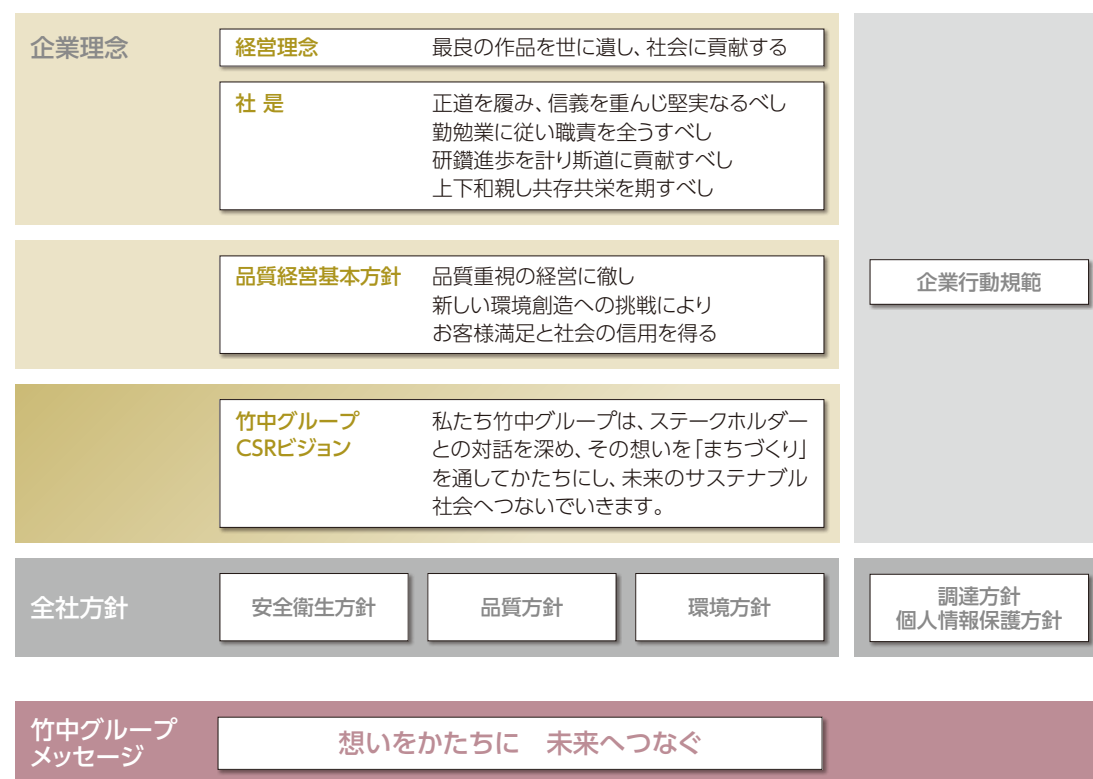
2008年
世界初の3棟連結超高層集合住宅
アイランドタワースカイクラブが竣工。

想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続してきました。

しかし、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「エネルギー問題」「災害リスクの増大」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの問題は未来の社会に大きな影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。

こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」を制定しました。また、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を「竹中グループメッセージ」として表現しました。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、CSRの行動指針である企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。



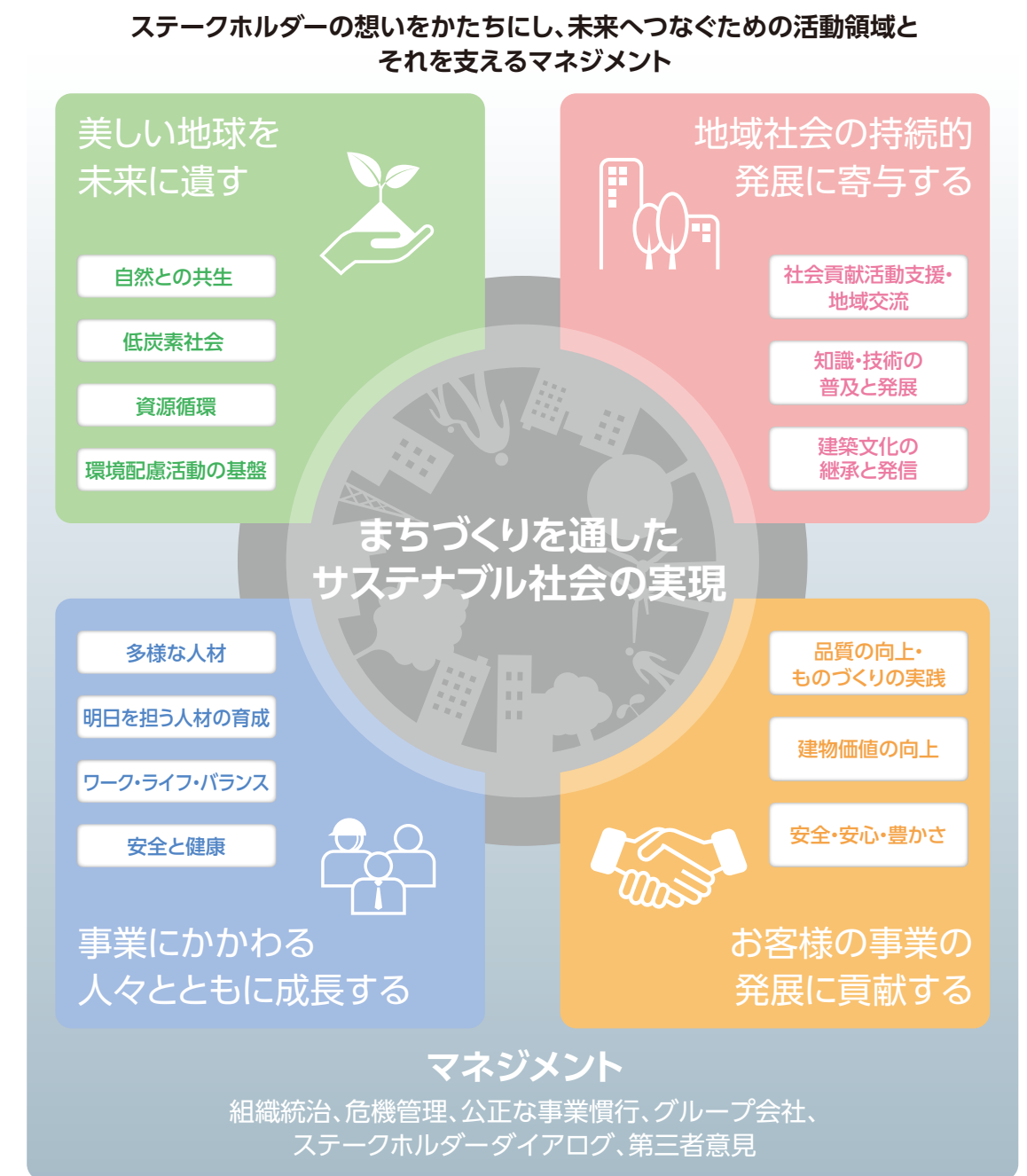
竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員・協力会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、いまま未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。

そのために、今後ステークホルダーとの対話をより一層深めます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループがもつ事業力を組み合わせ、新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会を実現していきます。

ビジョンを実現するためのステークホルダーの方々との取り組み

「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員・協力会社」など当社のステークホルダーの期待に応えるため、具体的なCSRの取り組みとして14の活動領域と、それを支えるマネジメントの取り組みを企業行動規範とも整合性を取りながら定め、推進しています。これらの取り組みを着実に進めることで様々な社会的課題の解決に挑戦し、サステナブル社会の実現に貢献していきます。



お客様の事業活動に、グローバルなスケールで最良のソリューションを提供し、グループの総力でサステナブル社会の実現を目指していきます。

取締役社長 COO
宮下 正裕

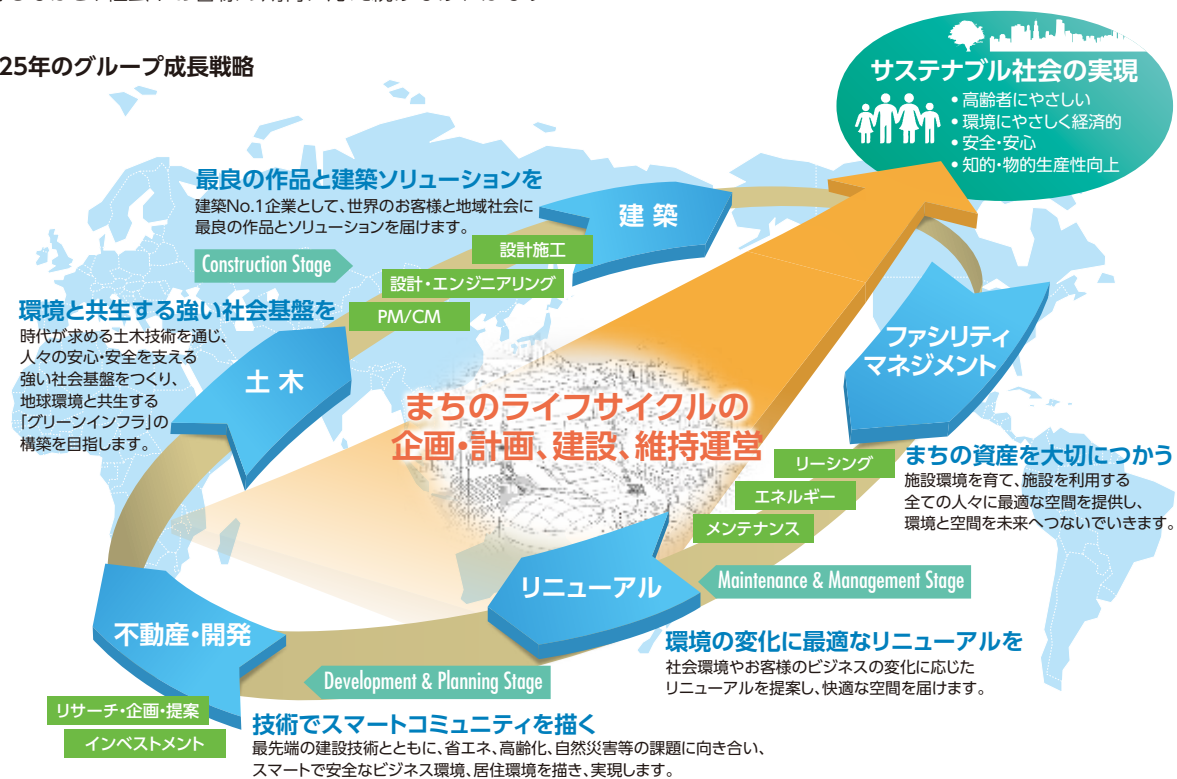


Q 中長期的なグループとしての成長戦略については、どのようにお考えですか。

A 私たちには、少子高齢化社会への転換やインフラの再構築、エネルギー問題や自然災害への対応など、社会が抱える様々な課題に最良の技術とソリューションを提供し、人々が豊かで明るく、そして安心して暮らすことができるサステナブル社会を実現するという大きな使命があります。海外では経済のボーダーレス化やアジアの発展などの環境の変化に対応しながら、社会やお客様の期待に応え続けなければなら

ません。そのためには、グループ全体の事業領域を「まち」として捉え、企画・計画から建設、維持運営まで「まち」のライフサイクル全てにおいて貢献していく必要があります。2025年を見据えたグループの成長戦略として、「まちづくりの全てのステージ」で、グループ各社が緊密に連携して社会とお客様の期待に応え、社会とお客様にとって最良のパートナーとなることを掲げています。

2025年のグループ成長戦略



Q 将来に向けて、今後注力する分野や新規事業についてどのようにお考えですか。

A 老朽化した社会インフラの維持更新やリニューアル・ファシリティマネジメントなどの周辺領域の当社がサービスを提供できる分野で、グループ各社と緊密に連携し、しっかりと責任をもって取り組んでいく必要があると思います。また、事業形態・発注形態については、民間の役割を拡大していく流れになってきており、PFIに加えPPPと言われる、事業

そのものを民間が背負っていく形態も今後広がっていきます。このように、社会が抱える課題やニーズに応じていくことは、私たちにとってただ建物をつくることだけではなくていきます。サービスの提供という点においては、今後私たちの事業領域がますます広がっていくことになります。当社の強みが発揮でき得る領域への新たなチャレンジも視野に入れていきたいと考えています。

新たな価値を創る



Q 本年度より新3か年が始まりますが、前3か年を振り返り、この新3か年ではどのようなことを重要視されていますか。

A 前3か年は、業績面で厳しい状況が続きました。新3か年ではまず収益基盤の改善を図り、将来の成長に向けた事業基盤の構築を図っていきます。私たちが独自性を発揮してきた「設計力」と「技術力」に磨きをかけ続け、生産性の向上や多様な人材による専門性とマネジメント力を高めることが必要です。まずはそれを成し遂げたくて、グループ各社における事業間での連携強化や協力会社とのパートナーシップの拡大による生産力の強化を図り、まちづくりにおける新たな価値の創出にリーダーシップを発揮していきたいと考えています。海外建設事業では、対応体制を整備し今後3か年で更なる事業の成長を目指していきます。人材についても現地でしっかり対応できるグローバル人材を育成・確保できる人事・教育体系を引き続き構築していかなければなりません。また、安全・品質の確保は、

私たち建設業にとって最も重要な課題です。ものづくりの最前線である作業所において、確実な災害防止と品質の向上に取り組んでいきます。

成長に向けてのステップ



それぞれの想いを結集し、日本一に挑む

ーあべのハルカス 300mへのチャレンジー

2014年3月、近鉄大阪阿部野橋駅に、地上300mの超高層複合ビル

「あべのハルカス」がグランドオープンしました。

日本一の高さを誇るこのビルは、駅、百貨店、美術館、オフィス、ホテル、展望台で構成され、大阪のランドマークになるとともに、阿倍野・天王寺地区に新たな豊かさインパクトをもたらします。

VOICE

“想いをかたち” 「ジャックと豆の木」「天空の城」「バベルの塔」。様々な寓話と寓意の中に秘められた天空への憧れと見果てぬ夢。重力に反するという一点で私たちは横に広がる街と全く異質のものを立体都市に見ています。街を縦に積んでいく、その技術とサイエンスに裏打ちされたドリームが実現しました。まさに「想いをかたち」にということでしょう。大通り、バイパス、網の目のような細街路の代わりにシャトルエレベーター、エスカレーター、階段が動線的にも視覚的にも最適に配備されています。垂直に移動するたびに現れてくる各施設群、様々な屋上庭園、高度の変わる大阪平野の眺望、ハードのシークエンスだけではなくソフトにおける各都市機能の輻輳したシナジー。コンパクトシティを持ち出すまでもなく都市の立体化は必然であり、そこに新しい豊かさがいよいよ求められてきています。



株式会社竹中工務店
専務執行役員

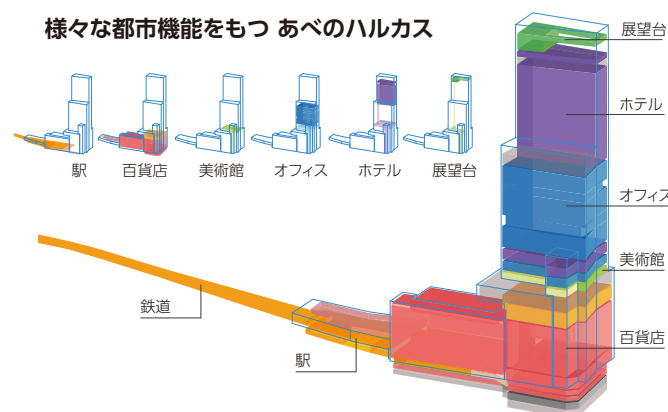
天野 直樹

様々な都市機能が内蔵された「省エネ立体都市」

大阪市の阿倍野・天王寺地区は関西空港や周辺都市を結ぶ重要な交通拠点に位置し、様々な史跡や緑豊かな公園、美術館など、多くの都市機能が集積した、大阪を代表するエリアです。当社はかねてより、この地区で多くの開発・施工実績を残しており、近年では、「あべのHoop」「あべのキューズタウン」「岸本ビル」などに携わり、魅力的なまちづくりに貢献しています。そして、当社がプロジェクトの企画から設計・施工までトータルにかかわった「あべのハルカス」が開業を迎え、阿倍野・天王寺地区は大阪のゲートウェイとして大きく飛躍しようとしています。あべのハルカスは都市機能を立体的に積み重ね、低層部の百貨店、中層部のオフィス、高層部のホテルの3つに大きく分か

れています。柱スパンや天井の高さはそれぞれの機能に合わせて設計し、それらの架構をつなぎ合わせるように建物全体にトラスを配置。各種ダンパーを組み込むことで地震や風による揺れを低減するとともに、各層の接続部にはトラス階を設け、火災時の延焼防止帯や、換気や採光を担うエコヴォイドの役割を持たせています。また、外装のほぼ全面にアルミカーテンウォールとフロート合わせガラスを採用。透明感のあるデザインで、まちとの一体感を生み出しました。

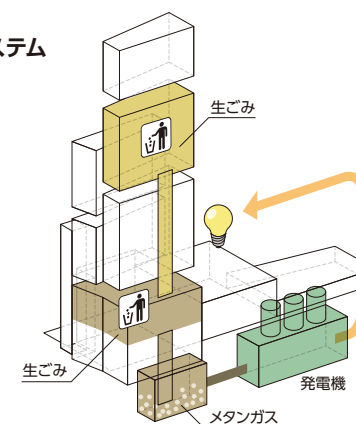
様々な都市機能をもつ あべのハルカス



省エネ立体都市を支える技術・工法

環境技術を積極的に取り入れ、建物各所にエコヴォイドを設置したほか、高遮熱ロールスクリーンを挟み込み空調負荷を低減するダブルスキングラスなどを採用しました。また、ビル全体のエネルギーを見る化して管理するエネルギーマネジメントシステム (A-EMS) も導入。更に、生ごみなどからバイオガスを生成し、発電や給湯の燃料とする都心型バイオガスシステムを開発・商品化。これにより平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受表彰しました。

都心型バイオガスシステムの概念図



施工期間は約6年。空きスペースのない市街地での建設にあたり、養生枠を上部にスライドさせることにより、地上300mでも安全な環境で工事をすすめることのできるスライドカバー工法や、地上約100m・200mの平地(ヤード)を資材置き場にする立体ヤードシステムなど、新工法も開発。工事開始後も営業を続行している既存の駅や百貨店利用のお客様の利便性を確保しながら、難易度の高い工事を完成させました。



スライドカバー工法

あべのハルカス
WEBサイト

www.abeno.project-takenaka.com

あべのハルカス 概要

建 築 主	近畿日本鉄道(株)
設 計・監 理	(株)竹中工務店
外装デザイン	竹中工務店+ペリ クラーク ペリ アーキテクト
施 工	竹中工務店JV
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
階 数	地下5階、地上60階
延 床 面 積	約306,000m ² (タワー部分:約212,000m ²)

2050年に向けた環境への取り組み

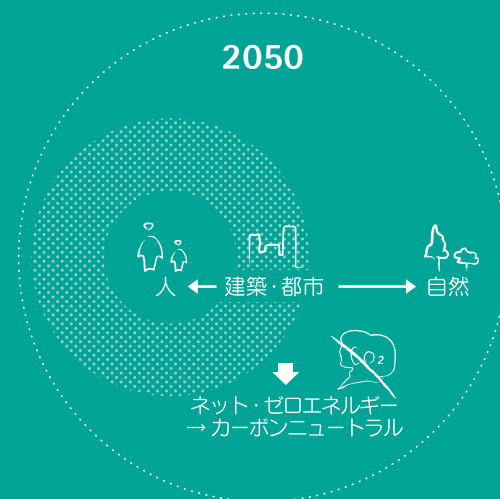
ー環境コンセプト 改定ー

当社は、1971年から「設計に緑を」のキャッチフレーズを、2010年には環境メッセージ「人と自然をつなぐ」を掲げて環境と調和する空間創造に努めてきました。

いま、世界の共通目標であるカーボンニュートラルな都市の実現のために当社が最も貢献できることは建物運用時のエネルギー消費量を削減することであり、その究極の姿である「ネット・ゼロエネルギービル」を実現していきたいと考えています。

この想いをより明確にするため、2010年に制定した環境コンセプトと2050年に向けた長期目標を改定しました。

私たちの目指す2050年の姿は、人々が健康・快適でいきいきと活動し、感性や創造性が刺激され、そして多様な文化が育まれるような社会、同時に、建物や都市が自然に与えるインパクトや温暖化ガスの排出を最少化した社会です。そのような社会を目指し、ネット・ゼロエネルギービルやネット・プラスエネルギービルの実現、スマートコミュニティの推進に取り組んでいきます。



メッセージ
人と自然をつなぐ

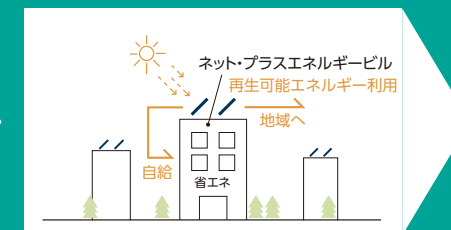


コンセプト
人の感性や創造性を高め、自然を活かし、
ネット・ゼロエネルギービルから
カーボンニュートラルな都市への実現を目指す

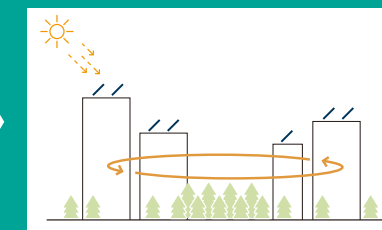
建物単体では、ネット・ゼロエネルギーやネット・プラスエネルギーを追求します。
更に地域全体で環境を考える「スマートコミュニティ」や「スマートシティ」により、
地域全体の省エネルギーや低炭素化、地域の豊かな環境や生活利便性の向上などを目指します。



ネット・ゼロエネルギービル
省エネを徹底し、建物自身でエネルギーを創り、消費を全てまかない自給する建築。
ネット・プラスエネルギービル
完全自給し、更に余剰の創エネルギーを地域の建物に供給するような役割を果たす建築。



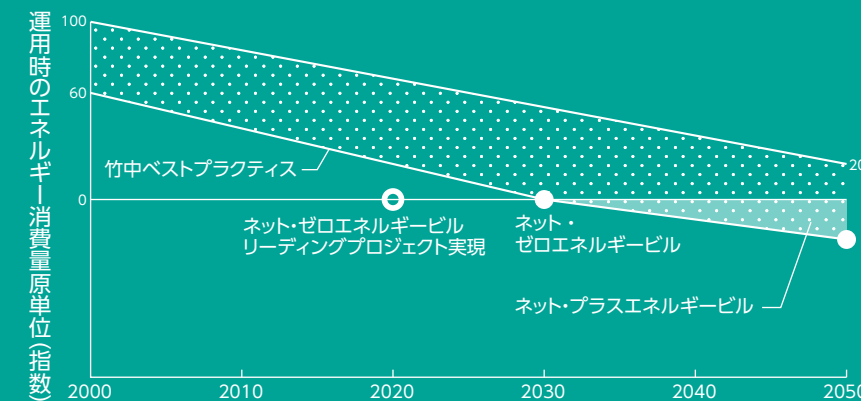
スマートコミュニティ
地域全体の省エネ・再生エネを通じた需給調整・エネルギー融通を行い、同時に地域の豊かな環境や生活利便性の向上などを旨ず。



カーボンニュートラルな都市
コンパクトシティや都市の豊かな環境の創出を目指し、再生エネルギー等の活用も含めて地域、都市のカーボンニュートラル化を図る。

長期目標

2020年にネット・ゼロエネルギービル リーディングプロジェクトの実現、2030年にネット・ゼロエネルギービルの定着、2030年以降にネット・プラスエネルギービルを目指す。



4つの視点

私たちは、環境コンセプト・メッセージを展開し、
目標を実現していくための4つの視点を設定しました。

- 1 人の快適性から空間を考えること
- 2 自然と応答するネット・ゼロエネルギービルを目指すこと
- 3 新しい建築の価値を創造すること
- 4 地域全体の環境を考えること

それぞれが大切なことで、これらの視点を考え合わせながら、
目標の実現に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。



詳細は当社WEBより
環境コンセプトブックを
ご覧ください。

1

人の快適性から空間を考える

建築の内部にいる人の環境を考える
身体的な快適性や人の感性を大切に
建物づくり・空間づくりを行います。



プール学院中学校・高等学校
エントランス周辺のピオトープは生徒の生活や理科・環境教育の一部として活用され、感性を育む役割を担っています。

2

自然と応答するネット・ゼロエネルギービルを目指す

建築の外部と内部をどうつなぐかを考える
自然と応答する外皮のあり方はますます
重要なものとなっています(断熱気密性能
から室内気候調節、デザインまで)。その
上で自然エネルギー利用を主体としたネッ
ト・ゼロエネルギービルを目指します。



竹中工務店東京本店
自然光の取り込みや自然風を利用した空調、太陽光発電などにより自立したネット・ゼロエネルギービルを目指しています。

3

新しい建築の価値を創造する

社会・経済のストックとして建築の価値を考える
建物の社会的・経済的価値を高めること
を、お客様とともに実践します。使い方を
革新し、事業性や資産価値、利便性、事業
継続性などを共に創り出すと同時に、材料
や工法、BIMなどの生産革新を図ってい
きたいと思っています。



トヨタテクノミュージアム産業技術記念館
産業遺産であるレンガ造の工場の面影を残しつつ補強し、展示空間として再生しました。

4

地域全体の環境を考える

都市、地域への広がりとして建築を考える
地域全体でエネルギーのあり方を考え、
同時に地域全体の環境の質の向上や地域
の安全性、運用連携を高めることが模索
されています。このような視点からの提案
と実現を図ります。



大阪ビジネスパーク
リノベーションに合わせて地域統合型エネルギー・マネジメントシステムによるエネルギーの効率化を目指しています。

建築、土木、開発、その他の事業分野で、竹中グループの人材、設計、エンジニアリング、技術開発などあらゆるノウハウやリソースを活用。
安全・安心で豊かなまちづくりを通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

建 築



海 外



開 発



エンジニアリング



概要	コンテンツ	ページ
現代の建築には、仕事や生活空間としての快適性や効率性だけでなく、地域文化・都市環境への配慮が求められます。周辺環境と調和したデザイン、社会的資産である建物の再生・価値創造など。当社は建築を通して、地球環境や社会に貢献したいと願うお客様の想いをかたちにするお手伝いをしています。	● サステナブル・ワークス® ● 総合力から生まれるデザイン ● 魅力再生®	P19
1960年の米国進出から半世紀を超え、今や欧米・アジアの主要27拠点を中心に世界にネットワークを拡大しました。空港、超高層オフィス、ホテル、工場、美術館など多彩なプロジェクトの設計施工から技術指導、コンサルティング業務、資材調達まで。多岐にわたる事業活動で、お客様のグローバル展開をサポートしています。	● ヨーロッパ拠点 ● アジア拠点・中国拠点 ● アメリカ拠点 ● 空港 ● 主要作品	P23
国内主要都市の再開発など様々なビッグプロジェクトで、中核となるオフィスビルやホテル・商業・エンターテインメントの複合施設の設計や施工を数多く手掛けています。また、市街地再開発事業やPPP/PFI事業、海外リゾートの開発事業も積極的に行うなど、都市・地域の再生、まちづくりに誇りをもって参画しています。	● 市街地再開発事業 ● PPP/PFI事業 ● 海外開発事業 ● 開発事例	P25
工場の再構築計画や地震対策・免震改修の提案などの事業継続支援、エネルギー管理システムによる低炭素都市実現への取り組み、サステナブルな社会を目指した木造・木質建築資材の開発や最先端放射線がん治療施設実現への取り組みなど。最先端のエンジニアリングで社会とお客様のニーズに応えます。	● 製造・物流施設への取り組み ● 事業継続マネジメント ● スマートコミュニティ ● 燃エンウッド® ● 粒子線がん治療・PET診断	P27

お客様の想いをかたちに

建物に求められる機能は高度化、多様化しています。

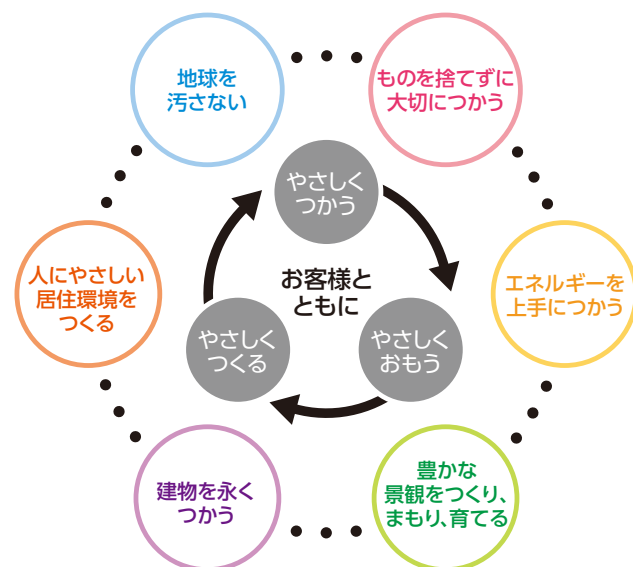
環境への配慮はもちろんのこと安全で安心、そして強靱でなければなりません。

更に当社は「人への優しさ」という視点を重視し、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。

サステナブル ワークス

当社が提唱する「サステナブル・ワークス®」とは、「お客様とともに環境に調和する空間創造を行うことを目指した建築への取り組み」を意味します。サステナブルな社会を次世代に手渡すための建築からのアプローチであり、地球環境や社会に貢献

したいと願うお客様の想いをかたちにしてお手伝いでもあります。お客様が建物を「地球にやさしくつかう（運用）」ことができるよう、私たちは「地球にやさしくおもしろい（設計）」、「地球にやさしくつくる（施工）」ための様々な工夫をしています。私たちは、運用・設計・施工の全ての活動において、右記の6つの視点から評価し、お客様とコミュニケーションをとりながら進めていきます。



飯野ビルディング — 環境性能と事業継続性を備えた高品位オフィスビル —

飯野ビルディングは、都心に立地する大型複合ビルにおける「サステナブル・ワークス」の最先端モデルと位置付けています。サステナブルな高層テナントオフィスビルの理想的な在り方を目指し、働く人の快適性・業務の効率性・事業継続性などを多角的に検討してオフィス部分のエネルギー消費量を半減する高い環境性能を実現すると同時に、地域文化や都市環境への配慮を図っています。

高品位・高機能なテナントオフィスビルの実現

高層オフィス部分は、外装を石とガラスで構成したダブルスキンとし、格調の高さと環境性能を併せもつ新しい表現としました。共用部は、光と風を感じさせるエコヴォイドや屋上緑化などにより、アメニティの高い空間としています。



都市環境への配慮と貢献

敷地北側の日比谷公園に面する公開空気を設けたり、敷地東側の隣接ビルと地上部、地下部でそれぞれつなげ、地下鉄駅へとつながる地域の歩行者ネットワークの拡充を図っています。



地域文化の活性及び伝統の継承

低層部には、地域のにぎわいを創出する商業施設と、地域文化の活性を促す伝統あるイノホール、及びカンファレンスセンターを配しています。



設計・施工=竹中工務店

前面のⅡ期工事予定範囲はCGによるイメージ

○ エネルギーを上手につかう



オフィスLED ベース照明

システム天井のベース照明をLED照明とし、明るさセンサーによる昼光利用照度制御と人感センサーによる在室検知制御を活用して、従来の蛍光灯照明のオフィスに比較して大幅な消費電力の削減を行っています。

○ 豊かな景観をつくり、まもり、育てる



都市環境に配慮したオープンスペース

日比谷公園に面した公開空地（Ⅱ期工事エリア）とそれに続く大規模なピロティ空間は、周辺地区のオープンスペースと接続して歩行者ネットワークを構成し、日比谷公園の豊かな緑を愛宕山方面へ拡張していく起点となることを意図しています。

○ 建物を永くつかう



高い耐震性能を合理的に確保

高層棟のコア部には、竹中式H形鋼座屈補剛ブレースや粘性体ダンパー（制震壁）の制震部材を用い、通常の超高層ビルより高い耐震性能（層間変形角1/125以下）を確保しています。

○ 人にやさしい居住環境をつくる



自然通風貫通型ダブルスキン外装～呼吸する外皮～

高層オフィス部分の外装は、熱負荷制御機能をもつダブルスキンとしています。同時に、ダブルスキン層の空気とは隔離させた、直接外気を室内へ導入する自然通風機能を持たせ、四季の変化のある日本の気候に合わせた外装を実現しています。

○ 地球を汚さない



環境負荷を低減する外装カーテンウォール

船輸送のコンテナサイズに合わせてユニット化することで積み替えなしに現場に搬入したり、先端小梁と取付用ファスナーを一体とした凸型PC化することにより、耐火被覆などを省力化し、環境負荷を低減しました。

○ ものを捨てずに大切につかう



旧イノホールのアート再生

解体時に美術家・村井正誠氏によるレリーフを取り外して保存し、専門家による表面処理を施した後に再生活用して、旧イノホールの記憶を継承しています。

総合力から
生まれる
デザイン

当社の建築デザインは、「総合力」から生まれます。例えば、第一生命新大井事業所。神奈川県・小田原近郊に立地するオフィス及び配送センターで、保険証券を取り扱うため高いセキュリティと業務の規律が求められます。一方で、第一生命が半世紀前に旧大井事業所を建設した際に提唱した「ヒューマニティ豊かなオフィスを継承し実現する」とは、立地環境を生かした集中とリラックスのための“自然環境”を織り込む構成でした。そこで私たちは、周辺の豊かな緑に連続するランドスケープを敷地全体に設定し、そのままワークプレイスとするアプローチを選択。隣接する住宅や小学校、社員寮にも配慮し、フェンスで囲まれた高セキュリティの巨大な施設が環境の中に割り込んでくる違和感を払拭しています。更に、省CO₂対策として相模湾から吹き渡る恒常風をそのまま取り入れて空調へ。風も、景色も、印象も、全てが緑豊かな郊外環境とひと続きとなるワークプレイスを完成しました。



中庭と連続したリフレッシュ空間を設置。自然と一体化し、開放感を演出しています。

第一生命新大井事業所
ーランドスケープと一体化した建築ー

設計＝竹中工務店
施工＝竹中工務店(JV)



奥行き深いバルコニーや庇を介して、内外が連続するデザインを採用しました。

魅力再生

建物は私たちの生命や財産を守る器であるとともに、時を経て社会的資産に変化していきます。当社の推奨する「魅力再生®」とは、建築時の機能や美観を回復するだけでなく、新たな機能を付加することで資産価値を高め、事業性を向上させることを意味します。環境保全やサステナブルな観点から、「スクラップ＆ビルドからストック活用へ」という考え方が浸透しつつあります。時代のニーズに合わなくなった建物の基本機能・性能の向上だけでなく、歴史的な意義をもつ建物の保存と活用の両立、用途変更（コンバージョン）による新たな価値創造など、求められる機能も多様化、高度化しています。「魅力再生」には、当社が手掛けた数々の実績で培った設計力や技術力が活かされています。



福岡PARCO

福岡市の中心街・天神の老朽化したビルの耐震改修・内外装改修を行い、「福岡PARCO」として再生しました。LED演出照明の採用により街に明るさと華やきを創出しました。第21回BELCA賞受賞。改修設計・改修施工＝竹中工務店



迎賓館赤坂離宮

1909年に竣工した日本初の洋風宮殿である東御所を改修してつくられた国賓の迎賓館が築100年を迎えたため、建築・設備の総合的改修を行いました。改修設計＝国土交通省 改修施工＝竹中工務店(JV)



西本願寺伝道院

1912年、伊東忠太設計・当社施工で創建。老朽化が進んだため、親鸞聖人750回大遠忌の事業の一環として、修復工事を行いました。外壁を傷めずに耐震性能を高め、1世紀前の姿がよみがえりました。第22回 BELCA賞受賞。修復設計・修復施工＝竹中工務店



堀之内 妙法寺本堂

「堀之内 妙法寺」は、1819年の建立から190年以上が経過。今後も長く使い続けるため、本堂の改修工事を実施しました。建物調査と併せて耐震診断も行い、超塑性性能をもつ「亜鉛アルミダンパー」を用いた耐震補強を実施。また、お堂の姿を極力変えずに、瓦屋根葺替えや空調・照明整備などの内・外装の工事、造園計画の提案も行い、古刹の魅力再生に貢献しました。改修設計・改修施工＝竹中工務店



かんざんじ温泉 華咲の湯・ホテルウェルシーズン浜名湖

開業して40年経たホテルのリニューアル。高層棟（13階建）の3～13階を解体し、1,2階は温浴施設に改修、同敷地内に低層の客室棟を新設しました。第22回 BELCA賞受賞。改修設計・改修施工＝竹中工務店



お客様のグローバルな展開をサポート

戦前からの歴史をもつ当社の海外活動は、1960年のアメリカ進出をきっかけに本格化し、現在では世界各地にネットワークを広げています。

海外進出を目指す日本企業、各国公的機関や現地企業などをお客様に、空港から、超高層オフィス、ホテル、工場、美術館など、多彩なプロジェクトを手掛けてきました。

設計施工はもとより、技術指導・コンサルティング業務・資材調達など、活動範囲も多岐にわたっています。



■ ヨーロッパ

ヨーロッパでは1973年にドイツ・デュッセルドルフに事務所を開設して約40年。現在では12か国に拠点を設け、日系のお客様を中心に活動し、1,500以上の工事を手掛けてきました。各国の拠点が連携し、複数国で進出を検討されているお客様に必要な情報をタイムリーに提供しています。



GCヨーロッパ本社 (2013 ベルギー)

■ アジア／中国

アジア地域においては約40年前より活動を開始し、1,500を超える工事を手掛けてきました。2014年にはタイ、シンガポール、マレーシアは進出から40年目を迎えます。中国を含めたアジア地域では、日本から派遣した従業員約250名に加え、ローカルスタッフ約1,550名が活動しています。



チャンギ国際空港・第4ターミナル (2017年竣工予定 シンガポール)



■ アメリカ

アメリカに1960年代に進出し、現在の当社海外事業の礎を築いてきました。現在では、イリノイ・インディアナ・オハイオ・ケンタッキー各州において日系のお客様を中心に活発なサービス活動を展開しています。



三光合成インドネシア工場 (2012 インドネシア)



アマダ シャンパーブソリューションセンター (2008 アメリカ)

■ 空港



クアラルンプール国際空港 (1998 マレーシア)



バンコク・スワンナプーム国際空港 (2006 タイ)



ドバイ国際空港 (2008 ドバイ)



チャンギ国際空港第1ターミナル改修 (2011 シンガポール)



ハマド国際空港王族・国賓専用ターミナル (2013 カタール)

■ 主要作品



KIA自動車ヨーロッパ本社ビル (2007 ドイツ)



ヤマザキマザック ポーランドテクノロジーセンタ (2011 ポーランド)



マキタベルギー新事務所・倉庫 (2012 ベルギー)



アイシンAI タイ第3工場2 (2013 タイ)



トヨタ自動車研究開発センター (2013 中国)

主な海外拠点

- 1 シカゴ(アメリカ)
- 2 インディアナポリス(アメリカ)
- 3 ニューヨーク(アメリカ)
- 4 サンフランシスコ(アメリカ)
- 5 ホノルル(アメリカ)
- 6 デュッセルドルフ(ドイツ)
- 7 パレンシェヌ(フランス)
- 8 ミラノ(イタリア)
- 9 バルセロナ(スペイン)
- 10 ロンドン(イギリス)
- 11 プラハ(チェコ)
- 12 ヴロツワフ(ポーランド)
- 13 ブダペスト(ハンガリー)
- 14 ジリナ(スロバキア)
- 15 ブカレスト(ルーマニア)
- 16 ブリュッセル(ベルギー)
- 17 アムステルダム(オランダ)
- 18 バンコク(タイ)
- 19 ヤンゴン(ミャンマー)
- 20 ジャカルタ(インドネシア)
- 21 クアラルンプール(マレーシア)
- 22 シンガポール(シンガポール)
- 23 グルガオン(インド)
- 24 上海(中国)
- 25 広州(中国)
- 26 天津(中国)
- 27 青島(中国)

都市・地域再生

東京では、丸の内・日本橋、赤坂・六本木、品川などの再開発地区、名古屋駅前では、中部地方一の超高層オフィスビル、大阪では、梅田・中之島・阿倍野の再開発地区と、当社は、数々のビッグプロジェクトの設計や施工を手掛けてきました。更に市街地再開発事業やPPP/PFI事業、開発事業も積極的に行っています。

当社は、都市・地域の再生、まちづくりに、誇りをもって参画しています。

市街地再開発事業

目黒駅前地区市街地再開発事業

東京都品川区の目黒駅前における延床17万㎡に及ぶ大規模な市街地再開発事業です。当社は、2008年の事業協力者コンペにおいて、都心の憩い空間となる「森」を敷地内に有するオフィス・商業棟と住宅棟からなる複合施設提案により当選（JV）しました。事務局員を常駐させ、約130名に及ぶ地権者の合意形成や行政協議などを実施し、2012年には設計・施工業務を担う特定業務代行者（JV）に選定されました。2013年には権利変換計画認可を取得し、2017年の完成を目指しています。



全体完成予想パース



オフィス棟完成予想パース



完成予想パース

日本橋ダイヤビルディング

1930年築で2007年に東京都選定歴史的建造物の認定を受けた既存建物を保存しながら環境に配慮した最新オフィスビルとして再生します。地域の歴史を伝える公開スペースも設け、日本橋の経済、文化の活性化に寄与するプロジェクトとして注目されています。（2014年 竣工予定）

設計＝三菱地所設計、竹中工務店 施工＝竹中工務店



完成予想パース

新宿東宝ビル

旧新宿コマ劇場を隣接地と一体的に再開発。1,000室規模の都市型ホテル、12スクリーンのシネコン、店舗、アミューズメントからなる複合施設として生まれ変わります。シンボリックな外観デザインとあいまって、エンターテインメントシティ「歌舞伎町」再生の起爆剤として期待されています。（2015年 竣工予定）

設計・施工＝竹中工務店



グランフロント大阪

約7haの区域に床面積約57万㎡の床面積をもつ大規模複合都市開発で、都市再生特別地区の指定を受けています。当社は企画・設計・施工だけでなく、共同事業者としての役割も担っています。

基本設計＝日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
実施設計＝日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
竹中工務店、大林組
施工＝竹中工務店（JV）

PPP/PFI事業

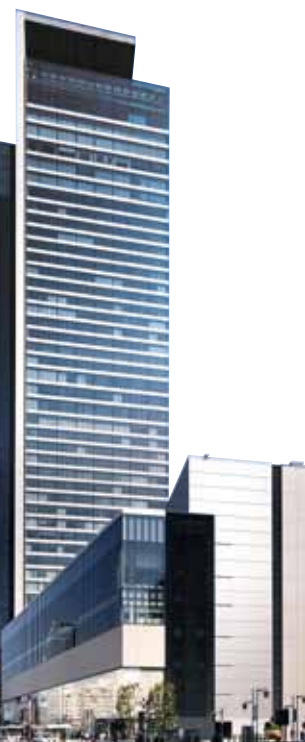
大阪府立成人病センター

がんと循環器の高度先進医療を担う特定機能病院を整備、維持管理・運営する事業です。2017年春の開院を目指して設計業務を実施中で、2014年夏に着工予定です。2012年に大阪府立病院機構がPFI事業の入札を実施し、当社を代表とするグループが選定され、事業契約を締結しました。当社はPFI事業の代表企業として、設計・施工だけでなく、約20年にわたる事業期間のSPC管理や総合調整などの役割を担っています。



完成予想パース

設計＝日本設計・竹中工務店設計共同企業体
施工＝竹中工務店



ミッドランド スクエア

豊田ビル・毎日ビルの共同化・再開発プロジェクトです。都市再生特別地区による中部一の高さを実現し、商業ゾーンを中心とした企画プロデュース、リーシング業務を受託しました。

設計＝日建設計 施工＝竹中工務店（JV）



大手センタービル

当社が東京・大手町に手掛けた開発事業プロジェクトです。申し分のない立地条件を備え、大規模改修工事により快適なビジネス環境を提供しています。

設計・施工＝竹中工務店



クリスタルタワー

自然豊かな大阪ビジネスパークにある当社が手掛けたオフィスビルです。オフィス空間からは大阪城公園の素晴らしい眺望を一望することができます。

設計・施工＝竹中工務店

海外開発事業

グランドハイアット カウアイ リゾート&スパ

当社の自社事業として開発・施工・運営まで一貫して手掛けた海外開発事業プロジェクトで、ハワイ諸島で最も自然豊かなカウアイ島に1991年開業したリゾートホテルです。103haの広大な敷地に602の客室、各国料理のレストラン、スパ、「PGAグランドスラム」を13年間開催したゴルフコースなど充実した施設を備え、ハワइटップ10リゾートに毎年ランクインする高い評価を得ています。地域に根ざした長年にわたる事業活動は、地域社会からも大きな信頼を集めています。



設計＝Wimberly Allison Tong & Goo
施工＝アメリカ竹中



One Fleet Place

2013年9月、当社グループの海外不動産事業の新たな展開を図るために取得した英国ロンドンのオフィスビルです。グローバル企業が欧州での拠点を置いている地域に位置しています。

写真のスケールは実際の建物とは異なります

最先端のソリューション

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。
当社では、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまで
トータルエンジニアリングでお応えしていきます。

製造・物流施設への取り組み

工場の再構築計画

生産能力の増強、製造品目の変更、建物の老朽化対策、敷地の有効活用など、お客様の事業計画に適合した再構築計画を立案することで事業の継続的発展を支援します。施設の新設のみならず、建替えや、生産設備の移設・立ち上げまで含む総合的な施設計画の提案により、「機会損失しない」工場の再構築を実現します。

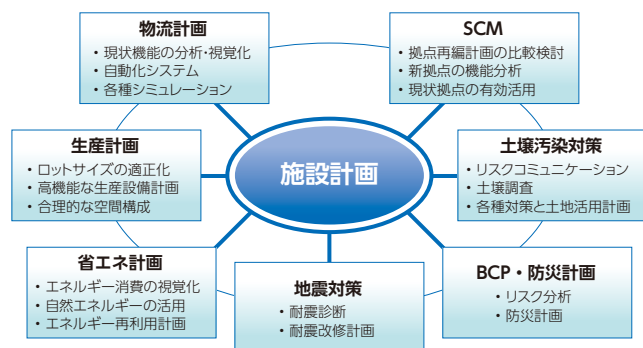
石福金属興業 草加工場における再構築



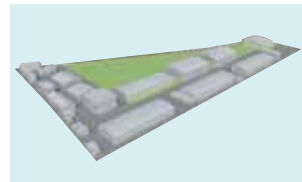
新A棟及び新B棟



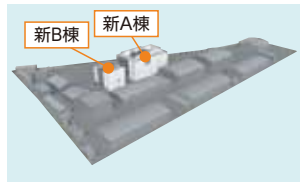
新C棟及び新D棟
新B棟 製造室内観



再構築のステップ



再構築前



STEP1



STEP2



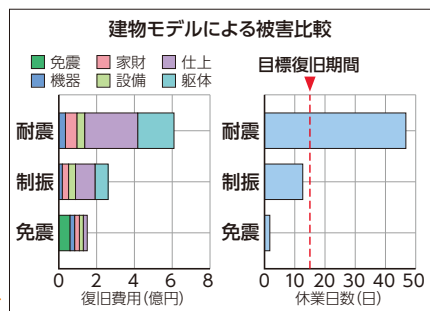
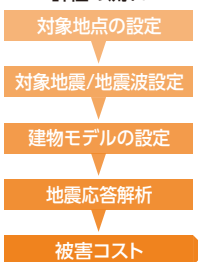
STEP3

事業継続マネジメント

地震被害推定システム

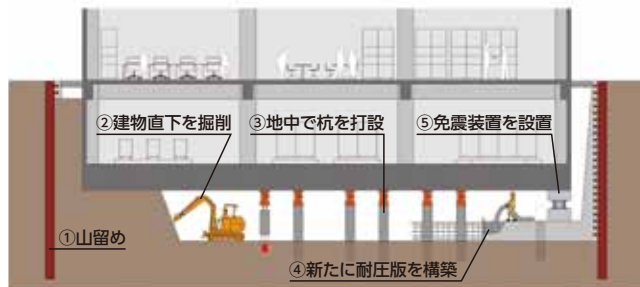
地震被害推定システム「TRAIN®-BCP」は、想定地震による建物被害を定量的に示し、事業継続計画（BCP）における被害軽減のための対策立案を支援します。現状と免震や制振などの対策案とを比較し、建物・什器・生産設備の被害コストや復旧工事期間・休業日数で対策効果が確認できます。南海トラフの巨大地震などの長周期地震動による被害も評価できます。

TRAIN®-BCPによる評価の流れ



居ながらできる®免震改修

大地震時の揺れを大きく低減できる「免震改修」は、既存建物の耐震性を向上させるだけでなく、什器・生産設備・サーバなどの被害を防止し、事業継続性の向上に大きく貢献できる技術です。工事中も建物を継続利用できることが特長で、重要拠点としてのオフィス、研究施設、百貨店、庁舎など数多くの実績があります。

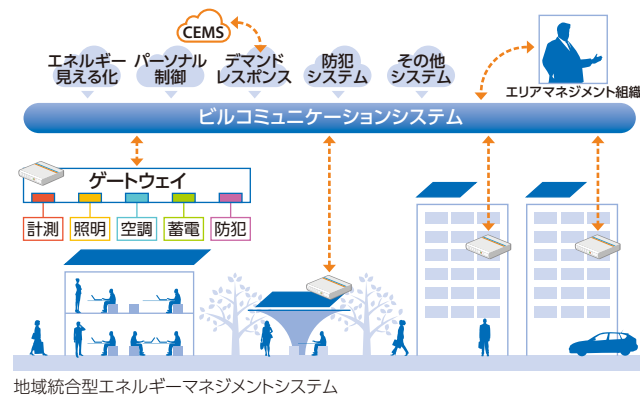


基礎免震改修の実施手順

スマートコミュニティ

建築設備とICTの融合

スマートコミュニティの実現に向け、建物・都市機能と情報システムとの融合を試行してきました。その中で、建物内外の環境や情報を、建物の設備や居住者・管理者と共有するプラットフォームとして「ビルコミュニケーションシステム」を開発しました。これにより、設備システムのクラウド化や、建物内外のビッグデータの利活用を実現し、コストダウンや新しい価値を創造していきます。



燃エンウッド®

近年、木造・木質建築は、森と人間が共生できるサステナブルな社会の実現、CO₂削減などに貢献できるとして、多方面から注目されています。当社はこうしたニーズに応えるため、火災に強い木造の柱・梁、「燃エンウッド®」を開発しました。国土交通大臣の1時間耐火認定を取得しているため、建築地、用途、面積に関係なく4階建もしくは最上階から数えて4層までを木造化できます。これまで、大阪木材仲買会館（大阪）、サウスウッド（神奈川）、イオンタウン新船橋（千葉）のプロジェクトに適用されています。



大阪木材仲買会館

既存街区のスマートリノベーション

当社が1960年から継続してまちづくりに参画してきた大阪ビジネスパークにおいて、まちのリブランドを目指したリノベーション事業に取り組んでいます。2011年の低炭素都市実現に向けたリノベーション指針策定に始まり、街区内のエネルギーマネジメントの最適化を図る情報プラットフォームを計画するとともに、共用空間を活用した低炭素型のワークスタイル、企業所有のEV・PHVを活用した電力供給システムを提案し、その技術実証を開始しました。これらの取り組みにより、まちの環境・防災性能を向上し、地域の持続的な発展を先導するとともに、ここで培った技術・ノウハウを様々な街区に展開していきます。



大阪ビジネスパーク

粒子線がん治療・PET診断

がんの早期発見に有効なPET検査施設では、最新の医学の知見や信頼の高い放射線防護技術が必要とされます。その中で、当社の設計施工実績は国内トップを誇ります。また、高エネルギー加速器施設の豊富な設計・施工実績を踏まえて、最先端放射線がん治療である重粒子線・陽子線治療施設の実現に積極的に取り組んでいます。当社施工の放射線医学総合研究所HIMAC新治療棟は、装置メーカーと連携して患者にやさしい開放的な治療室を実現しています。今後の重粒子線施設のモデルとなるものです。



重粒子線治療室



HIMAC新治療棟

国内主要グループ会社

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、
当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。

■ 竹中土木 人と環境に優しいものづくり

竹中土木は、竹中グループの土木分野を担う会社です。経営理念に「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を掲げ、社会資本整備を通じ社会の発展と人々の暮らしが豊かになるよう努めています。また、「環境と共生する社会基盤の構築に努め、社会の持続的発展に貢献する」という環境方針のもと、環境保全・省エネ・都市再生などのニーズに的確に応えるべく、「人へのやさしさ」を視点に企業活動に取り組んでいます。コーポレートメッセージでもある「人と地球のかけ橋」という使命を全従業員が共有し、住み良い未来の環境づくりをお客様と一緒に歩んでいきたいと考えています。



首都高速道路 川崎縦貫線 大師ジャンクション

■ TAKリビング 「確かなものづくり」で空間に木のぬくもりを

TAKリビングは、造作木工・家具の専門工事会社として、65年にわたる実績を誇っています。木の加工や納まりに精通した設計者が、企画段階から詳細設計までを最新のCADシステムで行い、熟練技術者が国内外より調達した木の素材を十分に吟味し、自社工場内で厳しい品質管理のもと製作しています。同社は伝統木造工事も手掛けるなど“確かなものづくり”を通じ、お客様のニーズに応えながら、人々の快適な暮らしに貢献しています。



自社工場内での作業の様子

■ TAKイーヴァック 建築設備のトータルエンジニアリングを提供

TAKイーヴァックは、電気・給排水・空調設備のトータルエンジニアリングを通じ、より良い環境空間を創造する総合設備会社です。企画提案から工事施工、アフターサービスに至るまで、一貫した高いエンジニアリング力を発揮し、あらゆるニーズに適合する設備環境を提供しています。また、サステナブル社会の構築を目指し、メガソーラーの施工から省エネルギー診断などの多様なニーズに応えることで、より良い環境空間の創造に貢献していきます。



メガソーラー発電の施工例

■ アサヒファシリティズ お客様の建物価値と安全を守る

アサヒファシリティズは、1969年の会社設立以来、竹中グループの中で建物ライフサイクルの運用段階における運営・維持管理事業を担っています。建物は、その機能を長年にわたって発揮してこそ優良な資産となります。建物の「価値」を導き出す最良のパートナーを目指し、設備の運転・保守、警備、清掃など建物管理の最適化を実現するビルマネジメント事業をはじめ、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、リスクマネジメントを担う保険代理事業と、お客様の建物価値を守り、高品質できめ細かなサービスを提供しています。



同社技術研修センターでの研修風景

竹中グループの技術開発

社会が求める環境、安全・安心、生産革新にかかわる最先端の技術開発と、
イノベーションを指向した独創的なシーズ技術の研究開発を竹中技術研究所を中心に推進しています。
まちづくりのあらゆるステージでグローバルに先端技術・ソリューションを提供し、サステナブル社会を実現します。

竹中技術研究所

1953年に東京で開設した竹中技術研究所は、1993年に千葉ニュータウンに移転し、時代のニーズを先取りした新技術の創出と実証フィールドとして、お客様に満足いただける価値を提供しています。建設にかかわる多様な専門分野の研究者が結集し、国内外の研究機関と連携しながら、世界トップレベルの研究を行っています。先進技術を身近に体感できる展示室には、お客様の課題解決と事業創出のヒントがあり、潜在的ニーズを掘り起こす情報発信の役割を担っています。当社は、今後のまちづくりに向けて、「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で技術開発に取り組んでいます。

 www.takenaka.co.jp/rd

安全・安心で合理的な防火技術

当社は防火技術の向上にハード・ソフトの両面で精力的に取り組んでおり、2009年には技術研究所内に日本最大規模の耐火実験棟を建設しました。最大載荷能力30MN（メガニュートン）、8時間加熱が可能な施設で、実大実験により火災時の詳細なデータを取得することができます。

当社は性能設計にいち早く取り組み、安全性と経済性を両立させた数多くのプロジェクトを創出してきました。耐火設計では、火災シミュレーションにより安全性を確認することで耐火被覆の合理化を図ることができます。避難安全検証手法では、精度の高いシミュレーション技術により避難時間や煙降下時間を正確に提示することで、火災時の安全な避難を確認することができます。更に2007年に開発した「あらかじめ検討」技術により、これまでテナントビルなどで用途変更に費やしていた手続き期間を大幅に短縮。お客様のニーズに迅速に対応することが可能になりました。



耐火実験棟

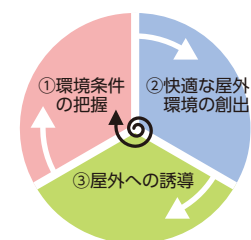


竹中技術研究所外観



地震防災のための地盤・基礎技術

地盤・基礎に関して多様な技術を開発し、適用しています。格子状に地盤改良体を配置したTOFT工法（耐液化格子状深層混合処理工法）による液化化防止技術及び、直接基礎と沈下低減杭の併用により建物を支持するパイルド・ラフト基礎の設計技術を保有し、安全で合理的な設計を行っています。



屋外オフィス



計測・表示システム

「いきいきとクリエイティブに働ける都市・建築」を実現する“スマート”な技術

開発したネットワーク指数[®]は、気温・風速・日射量などから「屋外の動きやすさ」を見える化し、スマートフォンなどに配信する技術です。オフィスでじっと執務するだけでなく、自然を感じながらの仕事（ネットワーク）を促すことで、働く人たちの健康と創造性を高めます。

「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員・協力会社」など
ステークホルダーの方々との対話を深め、
社会の課題を捉え、事業活動を通して解決を図ることにより、
未来のサステナブル社会の実現に貢献していきます。

ページ

地球環境

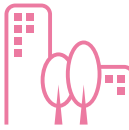
美しい地球を未来に遺す



P33

地域社会

地域社会の持続的発展に寄与する



P35

お客様

お客様の事業の発展に貢献する



P37

従業員・協力会社

事業にかかわる人々とともに成長する



P39

マネジメント

P41

グループ会社

P43

ステークホルダー・
ダイアログ

P45

第三者意見

P46

主な外部表彰

P47

今後の活動計画

P48

2013年の主な活動計画と実績

ステークホルダーと活動領域		主な活動計画	主な活動実績・具体的活動事例
地球環境	自然との共生	・生物多様性配慮プロジェクト拡大と自社土地評価の完了 ・感性価値評価設計の拡大	・生物多様性配慮プロジェクト拡大と自社土地評価の完了 ・快適性、知的生産性の検証の実施
	低炭素社会	・環境先進プロジェクト及び省エネ改修プロジェクトの件数拡大 ・施工段階におけるCO ₂ 排出量の暫減	・環境配慮設計及び環境技術の展開によるプロジェクトの拡大 ・施工段階におけるCO ₂ 排出量削減活動の継続
	資源循環	・建設副産物再資源化や発生抑制による最終処分量の削減 ・省資源技術、工法の開発	・流通段階の改善や新規工法採用などによる3R活動の推進 ・ビル内のバイオガスシステムなどの技術開発
	環境配慮活動の基盤	・教育、啓発活動及び外部への情報発信活動の継続	・環境コンペ、シンポジウムの開催や環境月間の実施 ・環境配慮活動による地球温暖化防止活動、環境大臣賞の受賞
地域社会	社会貢献活動支援・地域交流	・各事業拠点における地域支援活動の継続 ・従業員が提案・実施する活動の支援	・「子どものまち・いしのまき」への協力や 都市部での木質化推進などの地域貢献活動の継続
	知識・技術の普及と発展	・建築ノウハウを次世代へ伝承する活動の強化 ・専門性の高い従業員の教育貢献や当社作品の公開	・教員の民間企業研修や体験型授業「なにわ出前塾」の実施 ・自社研修施設を活用した次世代人材向け研修の実施
	建築文化の継承と発信	・3財団法人による活動の継続と連携の強化	・財団法人による活動や季刊広報誌「approach」の発行
お客様	品質の向上・ものづくりの実践	・品質保証体系に基づいた品質のつくり込みとプロセスの改善 ・お客様合意に基づく、基本計画段階から生産精度の向上及び 協力会社と一体となった品質のつくり込み	・品質保証体系に基づいたお客様や協力会社と一体となった 品質のつくり込み ・3次元モデルを活用した施工計画の精度向上
	建物価値の向上	・省エネや安全・安心ソリューションの提案 ・培われた設計施工技術を活かした歴史的建造物の保存と再生	・お客様ニーズに基づき、環境性・地域性・社会性・機能性に 配慮したリニューアル提案とソリューションの提供
	安全・安心・豊かさ	・免震・耐震、液状化対策、津波対策など安全・安心で 付加価値の高い建物、技術提供	・天井落下防止効果のあるメッシュセーフ工法や 3D津波・浸水シミュレーションなど安全安心技術の開発と適用 ・「居ながらできる [®] 免震改修」の展開
従業員・協力会社	多様な人材	・ダイバーシティ・マネジメントの推進	・多様な人材の採用強化 ・ポジティブ・アクションの推進
	明日を担う人材の育成	・従業員の自立的なキャリア形成や能力開発を支援する 育成体系の整備継続	・一人ひとりの適性を伸ばす仕組みづくりとグローバル化に 対応する人材の育成強化 ・若手建設技能者の育成と竹中優良職長制度の強化継続
	ワーク・ライフ・バランス	・ワーク・ライフ・バランス促進策の推進と 総労働時間短縮への取り組みの継続	・従業員支援制度の充実と運用強化
	安全と健康	・リスクアセスメントの徹底とその結果に基づく 現地、現物、現時での安全衛生管理の実施 ・メンタルヘルスや健康診断などの施策の継続推進	・労働安全衛生マネジメントシステムの運用による 墜落・落下災害の防止 ・健全な心身を保つための各種健康診断、ケアの実施
マネジメント	組織統治	・CSR、コンプライアンス意識の更なる向上	・CSR、コンプライアンスに関する教育啓発活動の実施
	危機管理	・情報セキュリティ意識の向上とグループ、協力会社における セキュリティ対策の支援 ・巨大地震を想定したBCPの拡充	・情報セキュリティのe-ラーニングの実施及びグループ、 協力会社への研修とセキュリティ巡回の実施 ・南海トラフ巨大地震を想定した合同震災訓練の実施
	公正な事業慣行	・調達方針の浸透と展開 ・法令遵守のための教育・啓発活動の継続	・調達方針及び活動指針の協力会社への説明会の実施 ・社会保険未加入問題の協力会社に対する周知徹底と指導の継続 ・建設業法遵守及び反社会的勢力への取り組みの継続
	グループ会社	・海外現地法人を含むグループ会社の企業倫理綱領改定と CSR推進の基盤整備	・グループ各社における企業行動規範への改定完了と CSR、コンプライアンス教育啓発活動の展開
	ステークホルダー・ダイアログ	・ステークホルダーとの対話による社会からの評価の把握と 事業活動へのフィードバック	・ステークホルダー・ダイアログの開催とそこで得られた 課題への対応施策の展開

美しい地球を未来に遺す

自然共生社会、低炭素社会、資源循環社会に向けた取り組みを推進しています。

2012年に環境方針を改定、グループ会社でも統一性のある方針を策定し、

生物多様性活動指針を制定するなど、環境配慮活動を拡大しています。

長期計画としては、2010年、環境メッセージ「人と自然をつなぐ」の制定とともに、

2050年に向けた建築と都市のあるべき姿と目標、その実現に向けたロードマップを作成しました。

短期の活動計画としては、3か年の「環境計画」を策定し、重点項目について年度ごとの目標値を設定しています。

自然との共生

生物多様性への取り組み

植生や生き物の分布を調べるなどして生物多様性の観点から土地利用状況を評価するツールをJBIB（一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ）の活動で当社研究員がリーダーとなって開発し、建物の計画・設計や自社土地の評価に活用しています。

資生堂銀座ビルの建替えでは、お客様と協力して周辺の生き物調査を実施し、計画に活かしました。近隣の日比谷公園など大小緑地から鳥類や昆虫を屋上庭園に誘引して生態系をつなぐために、呼び込む生き物を決めてそれに合わせた樹種を選定しました。また、お客様の事業である化粧品原材料となる植物を栽培し、屋上庭園は四季折々の変化を楽しめるだけでなく、地球の恵みから事業が成り立っていることを実感できる教育の場にもなっています。



お客様と一緒に実施した化粧品原材料植物の植え込み（資生堂銀座ビル屋上）



亜熱帯の丘陵地に建つ苗栗客家文化園區

低炭素社会

環境配慮設計の推進

2020年のネット・ゼロエネルギービル実現を目指して、環境配慮設計に取り組んでいます。原則として設計した建物全てについてCASBEE^(注)による環境性能の社内評価を実施するとともに、近年では、LEED^(注)など多様な評価手法の活用を進めています。

2012年に竣工した台湾の国立民族博物館である「苗栗客家文化園區」（台湾客家文化センター）は、亜熱帯に立地しながら、丘陵地の特性である自然風や水を積極的に利用して建物への熱負荷の大幅低減を達成し、更に自然光利用や雨水再利用を積極的に行い、現地の環境配慮建築の認証制度「台湾緑建築」のゴールドメダルを取得しました。竣工後1年以上経過し、成長の速い亜熱帯の樹木が育って丘陵の景観に馴染んできました（写真は竣工から約半年後の様子）。

（注）CASBEE、LEED：日本、米国で開発され活用されている建築の環境性能認証制度。

快適性と環境性能

当社は、常に人の快適性や満足度と環境性能の両立を目指して建物を設計しています。2011年に竣工した塩野義製薬医薬研究センターの新棟では、お客様と共同で室内環境や働く人の意識・行動データを収集し、効果を検証中です。既存棟と比較してエネルギー消費量を1割以上削減できた一方で、温熱環境への満足度も向上していることがわかりました。オープンスペースの活用により、知的生産性の指標であるコミュニケーション頻度も増加しています。

VOICE

VOICE

塩野義製薬医薬研究センターの新棟（SPRC4）は、①創造的コミュニケーションの活性化、②効率的でフレキシブルな研究環境、③安心と信頼の基盤システム、④地球環境にやさしいファシリティ、⑤誇りを感じる研究所というコンセプトで竹中工務店さんに設計施工していただきました。旧4拠点から集結した研究者が部門を超えた情報交流・連携のもと新薬創製に日々勤しむ様子を、竣工後モニタリングで実感しています。SPRC4における創薬研究が、「人々の健康を守るために必要な最も良い薬を提供する」という弊社ポリシーの具現化に大きく寄与するものと確信しています。

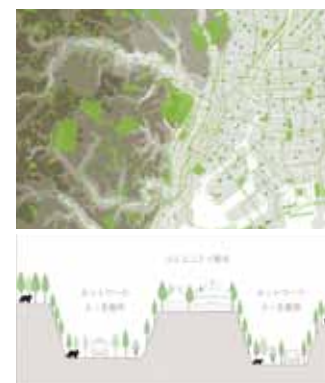


SPRC4建設プロジェクト
コンストラクションマネージャー
シオノギ総合サービス株式会社
研究開発サポート事業部

藤森 邦夫 様



外装ガラスカーテンウォール用の搬入専用枠（通い箱）



環境コンペ入賞作品「丘と谷のつながり」

資源循環

リデュースへの取り組み

ー梅田北ヤードBブロック（竹中工務店・大林組JV）ー
建設現場では産業廃棄物の分別徹底によって高水準のリサイクルを達成しており、今後は3Rの中でも特にリデュース（発生抑制）が重要な課題となってきます。

当プロジェクトは延床面積29.5万㎡の巨大な規模の工事で、発生する廃棄物も膨大となるため、特にリデュース活動に力を入れました。山留工事において特殊な添加剤の使用により建設汚泥発生量を30%削減、コンクリート打継部のコンクリート漏れを減らすエアフェンスを採用し研ガラ（削りガラ）を削減しました。また、材料搬入時の木製パレットをプラスチック製に変更、外装材搬入専用鋼製枠を作成し、木くずや梱包材を削減するなど様々な3R活動を展開し、3R推進功労者等表彰において、国土交通大臣賞を受賞しました。

環境配慮活動の基盤

啓発活動の継続

ー竹中環境コンペ・シンポジウム、環境月間ー

2009年より毎年、社内コンペを実施し社外講師やお客様をお招きしたシンポジウムの中で公開審査しています。

2013年は、「2050年のスマートシティを想像し建築のあるべき姿・関わり方を提案する」というテーマでアイデアを競いました。東京本店で開催したシンポジウムでは、建築家内藤廣氏の基調講演に続いてコンペ提案のプレゼンテーションと最終審査、パネルディスカッションを行い、近未来のビジョンなどの意見を交わしました。

また、社内啓発活動として2006年から継続している6月の「環境月間」活動を、2012年からはグループ会社に、更に2013年には海外事業所にも拡大して、ポスター掲示や胸章の着用、ライトダウンキャンペーンへの参加などを竹中グループ全体に呼びかけて実施しました。

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/01

WEB掲載コンテンツ

環境方針・生物多様性活動指針

環境計画

自然との共生

■ 自然と調和した設計

低炭素社会

■ 環境配慮設計事例

資源循環

■ バイオマス利活用

環境配慮活動の基盤

■ 環境配慮機材の普及活動

地域社会の持続的発展に寄与する

当社は、事業活動を通じて培った「ものづくりの精神や知識、技術」を広く社会に活かしています。企業財団の活動や季刊広報誌を通じた建築文化の継承と発信、学会や教育機関への人的貢献、社内教育施設の解放・利用による知識・技術の普及、各事業所における地域社会とのコミュニケーションなどを通して、次世代人材の育成と地域の発展に貢献しています。

社会貢献活動支援・地域交流

震災復興イベント 「第2回子どものまち・いしのまき」に協力

日本ユニセフ協会から委託を受けて、山形大学と協働で被災地の子どもの成長支援を通じた復興カリキュラム「こどもと築く復興まちづくり」を実施しています。

2013年にもプログラムの一つである「子どものまち・いしのまき」を地元やボランティアの方々と実施し、当社従業員も協力しました。宮城県石巻市の商店街を借り切り、子どもたち自らが仕事を探して働き、給料で買い物をするなど経済の仕組みを疑似体験しました。また「復興・まちづくり学習」プログラムも宮城県仙台市で七郷小学校の生徒たちと実施。模型づくりなどによる10年後、15年後のまちを計画する「未来の七郷まちづくり」を先生やNPOの方々と協力して行いました。

これからも、被災地復興に向け、将来を担う子どもたちを主役にした取り組みを支援していきます。

VOICE

知識・技術の普及と発展

「教員の民間企業研修」を実施

(一財)経済広報センターが主催する「教員の民間企業研修」に協力し、研修を実施しました。2013年は、夏休み中の3日間、高槻市と大阪市の小中学校教諭35名に、ものづくりの現場を体感していただきました。研修初日は、「竹中研修所 匠」及び「竹中技術実務研修センター 想」での座学の後、「集合住宅のRCモックアップ」で建物づくりを模擬体験。2日目は、当社従業員有志のボランティア組織「なにわ出前塾」による建築構造の講義の後、大阪市の「近鉄あべのハルカス作業所」を見学。3日目は、神戸市の「竹中大工道具館」見学後、研修の成果をどのように教育の現場で活かしていくかについて意見交換を行いました。次世代を担う子どもたちと接する先生方との対話は、当社にとっても大きな財産となりました。



商店街が楽しい遊び場に変身



真剣に仕事に集中



竹中技術実務研修センターで模擬体験



竹中大工道具館での実習研修



倒立振り子を使った共振実験



ブレースの効果を比較

体験型授業「なにわ出前塾」を初芝富田林中学校で開講

当社の大阪本店では、2013年に大阪府富田林市の初芝富田林中学校で出張授業「なにわ出前塾」を3年連続で開講しました。120名の生徒に対し、「感じる構造」をテーマに、手づくりの模型を使った共振実験や、補強材ブレースの実験などを実施。建物の構造や地震への備えなどを楽しみながら理解してもらいました。同校の校長先生からは「来年も」とのお話をいただいております。今後も積極的に行っていきたいと考えています。

VOICE

竹中工務店さんとの出会いは、2011年5月、こども環境学会主催の「東日本大震災復興プラン国際提案競技」に遡ります。子どもたちを復興プロセスの主役として位置づけるご提案は、まさに私たちが求めていたものでした。子ども主体のプログラムを進めることは容易ではありませんが、岩手、宮城、福島には、今、子どもたちが生き生きと将来を語る姿があります。これは、常に関係者の思いを酌み、理解を得ながら事実を整理し、理論的に詰めていく竹中工務店さんの存在があったからこそと感謝しつつ、連携の継続を切に願う次第です。



公益財団法人日本ユニセフ協会
専務理事
早水 研 様



竹中育英会第51回卒業生歡送会



「鉋鍛冶―碓氷健吾の仕事―」展示風景



体験教室「切出し小刀をつくらう」



「夏の家」実物大復元模型



「夏の家」全員集合

建築文化の継承と発信

公益財団法人の活動

当社は、財団法人の運営支援を通じて、「伝統技術の現代・未来への伝承」「現代の建築文化の社会への発信」「未来の社会を担う人材の育成」を柱とした、過去・現在・未来をつなぐCSR活動により、社会に貢献していきます。

●公益財団法人竹中育英会

設立から52年目を迎えた「竹中育英会」は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の深耕を図ることを趣旨に事業を続けています。中心の奨学事業では、毎年約180名の学生に奨学金を給付し、海外留学生への学資金支援も行っています。また、将来性のある建築系研究者に対する助成や、文化・芸術分野への支援も引き続き実施しています。

●公益財団法人竹中大工道具館(兵庫)

民族遺産として大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて匠の技と心を後世に伝えることを目的に、1984年神戸に開館しました。国内唯一の大工道具の登録博物館として、常設展示・企画展・体験教室など積極的に活動しています。2013年は「鉋鍛冶―碓氷健吾の仕事―」と題した企画展を開催し、「鉋」という道具がどのようにつくられるのか、職人技を科学的に解析し後進の範となった碓氷健吾の鍛冶人生を通して紹介しました。 www.dougukan.jp

●公益財団法人ギャラリーエークウッド(東京)

2005年に東京本店に開設して以来、様々な企画展を通して「建築の楽しみ方」や「建築のもつ芸術性や文化」を発信し、質の高い文化の振興に寄与する活動を続けています。2013年には「トーヴェ・ヤンソン夏の家―ムーミン物語とグループ島の暮らし」を開催し、ムーミンの作者であるヤンソンが毎夏を過ごした孤島にある手づくり小屋の実物大復元模型を設置するなど、ヤンソンの作品創出の背景となる生き方や暮らしを紹介しました。 www.a-quad.jp

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/02

WEB掲載コンテンツ

社会貢献活動支援・地域交流

- 作業所における地域交流
- 都市部での木質化推進 他

知識・技術の普及と発展

- 学生向け教育プログラムへの協力
- 学校での特別講義の実施

建築文化の継承と発信

- 季刊広報誌「approach」の発行 他

お客様の事業の発展に貢献する

お客様に満足していただける「安全・安心で魅力的な作品」を創出し、
社会の信用を得るため、先駆的な技術の開発・改善、
建物のライフサイクルにわたる品質確保や資産としての価値向上に取り組んでいます。
また、2013年に品質管理部を品質部に再編し、作業所の現地現物現時の管理体制強化と
品質管理業務の集約化により、更なる施工品質の向上に取り組んでいます。

品質の向上・ものづくりの実践

品質保証体系に基づいた活動

お客様の多様な期待を具現化し高い品質を実現するため、プロジェクトの品質保証プロセスを標準フロー化した「品質保証体系」に基づき、設計・施工段階での品質のつくり込みとアフターサービスによる品質点検、お客様満足度調査のフィードバックなど更なる改善に努めています。

デザインにおける

お客様とのコラボレーション

設計段階においては、お客様の想いを具体的なかたちに
するため、設計プロセスをお客様と共有し、建物の付加価値
を向上させる様々な提案を行っています。
このプロジェクトは、銀座並木通りの旧本社を建替える新
本社社屋計画で、設計デザインコンセプトを「先進性・豊かさ・
オリジン」としました。高い耐震性や環境配慮など最新エコ
技術の導入とともに、外装から内装の細部にまで社名の由来
でもある「万物資生」の精神にこだわり、普遍的な自然素材や
デザインモチーフを革新的な表現で展開しました。特に基調
となるデザインには、資生堂の象徴「花椿」や「唐草模様」を
用い、宣伝制作部とのコラボレーションにより「美」の価値観の
共有を行いました。外装を一体で覆う特徴的なアルミシェードは、オリジナルデザインの「未来唐草」で構成し、自然光や視線の制御をしながら流麗な景色・インテリアを創出しています。今後、この創業の地より未来に向けた新しい「価値創造拠点」として様々なクリエイティブが発信されます。

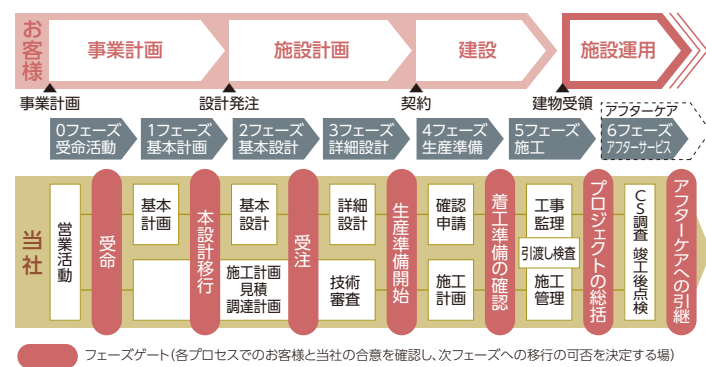
VOICE

3次元モデルの一貫活用

生産段階においては、3次元モデルを製作・施工まで一貫活用することで、関係者間の迅速な意思決定をはじめ、複雑な納まりの検討や図面の早期整合性確認、精度の高い施工計画の立案などに効果を発揮しています。

このプロジェクトでは、複雑な形状を伴う鉄骨工事に3次元モデルを活用しました。構造設計者・設備担当者・作業所・鉄骨製作会社

設計施工品質保証体系図



VOICE

資生堂銀座ビルの設計にあたり、私たち宣伝制作部も竹中工務店の皆様と一緒に
なってデザイン開発に関わらせていただき感謝しています。様々な試行錯誤の
結果、建築デザインに伝統のスタイルを革新的に取り入れることができたと感じ
ています。「未来唐草」を通して光がたくさん入り込み、柔らかい陰影が美しい、明
るく開放的な空間は女性社員からも大変好評です。開発中は自分たちが携わった建築で働ける
ことになるとは思ってもありませんでしたが、これからは創業の地である銀座の空気を肌で感じな
がら、生まれ変わった資生堂のクリエイティブを世界に発信していきますのでご期待ください。



資生堂宣伝制作部
クリエイション2室 室長
信藤 洋二 様

建物価値の向上

魅力的な都心型キャンパスの再構築

ー東京理科大学 神楽坂キャンパスー

当社は建物のライフサイクルを通してお客様をサポートし、
社会環境の変化を捉え、建物に必要とされる新たな価値
提案を行い、お客様の課題解決に貢献しています。
このプロジェクトでは、老朽化した7棟の主要建物があり、
各棟への用途配置の偏りによる学内での混雑や敷地境界
線上のフェンス・塀など周辺から閉鎖的な環境が主な課題
でした。そこで動線と用途配置の再構成を行い、学内情報
を受け取る「情報ピロティ」の新設や学生共有エリアの各棟
低層部への分散配置により、混雑緩和に加え全ての校舎が
緊密に連携した一体感のあるキャンパスを実現しました。
また、通りに面したフェンスのない開放的な芝生広場や一
般通行者も利用できる休憩テラスの設置、歴史ある路地と
学内通路を結ぶ「通り抜け」のアプローチの整備など、街と
融合し、開かれたキャンパスを再構築しました。



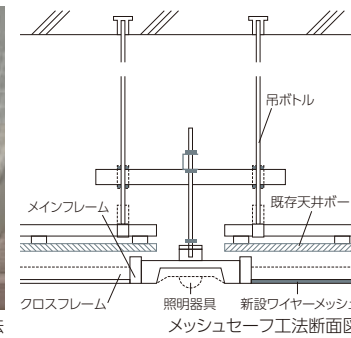
▲建物全体を同一デザイン
で統一し、街区のまとまり
と存在感を高めた外観



◀ 神楽坂を形作る石畳や石垣の要素を
取り入れた開放的な雰囲気づくり



試施工したメッシュセーフ工法



WEB掲載コンテンツ

www.takenaka.co.jp/enviro/vision/03

品質の向上、ものづくりの実践

- 設計段階における取り組み
- 生産準備、施工段階における取り組み

建物価値の向上

- ライフサイクルサポート

安全、安心、豊かさ

- 地震・津波・防虫対策などの取り組み
- 被災地の復興に向けて

事業にかかわる人々とともに成長する

当社は社是の一つに「研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし」を掲げ、従業員全員が向上心や先見性をもって新たな価値の創造を目指す努力を続けています。そのため、人権は言うまでもなく、多様な人格・個性が尊重される職場づくりを行うとともに、安全で働きやすい環境を確保し、自らのゆとりと豊かさ、そして成長を実現していきます。

多様な人材

幅広い人材が活躍できる職場づくり

多様な価値観に応えられる建築を生み出すためには、幅広い人材が、それぞれの能力を最大限に発揮していかなければなりません。当社では、女性、外国人、高齢者、そして障がいのある方なども含め、誰もが働きやすい職場環境の実現を目指しダイバーシティ・マネジメントを推進しています。近年はこれらの人材の採用に力を入れており、引き続き環境の向上に努めていきます。

中でも女性の活躍の場を広げるポジティブ・アクションを優先課題と考え、新卒採用者に占める女性比率を年々拡大しています。高齢者については、高度な知識・ノウハウをもつ経験豊かな従業員が定年後も活躍できる場を確保するため、雇用継続の義務化に先立ち2004年より再雇用制度を導入しています。障がい者雇用率については、法定雇用率(2.0%)を超える2.01%となっています。

VOICE

明日を担う人材の育成

新社員は入社後1年かけて研修

当社では、1952年から今日に至るまで、入社後1年間を新社員(総合職新入社員の社内呼称)が誠実な人間へと成長し、幅広い知識と当社の伝統精神を身に付けるための教育期間と位置付けています。期間中は、当社創立の地である神戸市の教育寮に入寮し、月に一度開かれる経営層との懇談会を通じ、実体験に基づくアドバイスに触れ、経営理念と社是をはじめとする歴代経営者の精神や「ものづくり」への真摯な姿勢を学びます。日常業務においては複数の部門に配属され、指導担当者とと呼ばれるメンターとのマンツーマンのOJTにより建築生産の仕組みとプロセスを幅広く経験します。2011年より選抜型で海外現地法人に派遣する「新社員異文化体験研修」をスタートさせるなど、社会環境が複雑化・多様化する中、経営戦略や教育ニーズの変化に合わせ、柔軟に内容の改善・充実を図っています。



女性リーダー育成研修



女性リーダー育成研修



外国人採用セミナー



新社員寮会



新社員異文化体験研修



竹和会合同新人研修会

竹和会合同新人研修会(基本マナー編と安全教育)を開催

建設業界で若手技能者の入職が減少する中、主要協力会社で組織される竹和会では若手人材育成委員会による「若手人材の採用」活動を行っています。2013年には会員各社の新入社員に将来、建設業界を担う人材になってもらおうと、合同新人研修を実施しました。基本マナー編においては、新入社員にもわかりやすく飽きない「笑い・緊張感あり」の研修となっています。今後も若手建設技能者の採用及び人材育成のために積極的に施策を展開していきます。

VOICE

私は1999年にアルジェリアから来日し、博士号を取得後、竹中技術研究所の構造部門で約8年間にわたり、耐震補強技術の開発を中心に様々な研究開発に従事しています。特に、構造実験を仲間と一緒にやる機会が多く、素晴らしい職場環境の中でアイデアを出し合い、意見を交換しながら、楽しく研究をしています。2012年には、プレストレストコンクリート工学協会から技術開発賞を受賞しました。今後は、日本や世界の人々の様々なニーズに応えられる価値ある技術の創出に向け、研究開発を進めていきたいと思います。また、趣味であるスポーツや旅行も行いながら、ワーク・ライフ・バランスを意識して働いていきたいと思っています。



竹中技術研究所 構造部門
RC構造グループ
ウサレム ハッサン

ワーク・ライフ・バランス

従業員支援制度の充実と運用の強化

当社では、従業員が仕事と生活の調和を図り、安心とゆとりをもって業務に打ち込むことができるよう、様々な支援制度を設けています。災害時の見舞金制度、育児・介護のための休職・特別勤務制度、長期の病気や介護に対するシックリープ制度から、配転や永年勤続といった職場生活の節目における特別休暇制度まで、安心とゆとり創出のための多岐にわたる施策を実施しています。従業員の要望に応えながら制度内容を拡充してきた結果、多くの項目で法定を上回る支援内容となっています。また、「育児休業取得促進」や「労働時間の短縮」に全社を挙げて毎年継続して取り組むなど、制度運用面の充実も積極的に図っています。

安全と健康

安全への取り組み

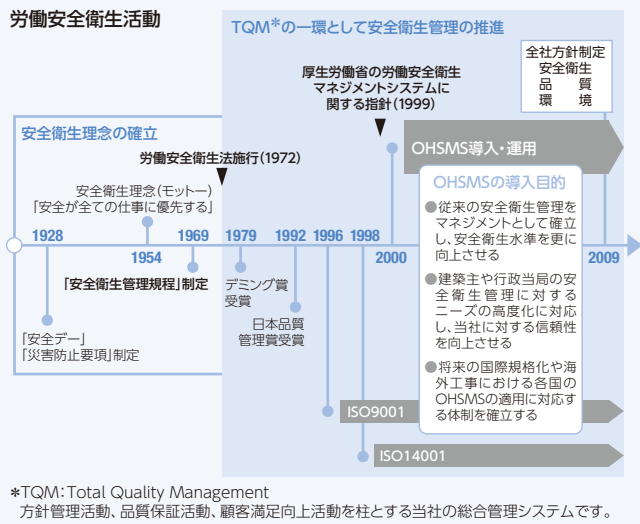
当社は1928年1月、毎月の「安全デー」及び「災害防止要項」を制定し、社長自ら「作業の安全を期し」「今後一切の災害を吾等の現場より除去するように努める」ことを宣言しました。1954年からは、社長メッセージを毎年年頭と全国安全週間に発行することで安全管理の決意を表明しています。2000年からは労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を導入、運用を始め、安全衛生方針である「災害、事故の撲滅を図り安全で快適な職場を実現する」の具現化を図っています。経営理念を実現するために、当社はTQMを経営活動の基盤に置き、OHSMSをISO9001やISO14001と同様、TQMIに包含される当社の安全衛生活動の仕組みとして位置付けています。現在の具体的な取り組みとして、墜落・転落災害防止を最重点課題とし、労働災害の撲滅を目指しています。

各種支援制度(法定を上回る主な支援内容)

	制度	内容
災害	被災時の見舞金制度	自然災害などに遭った場合に支給
育児	短時間勤務	子女が小学校4年の始期になるまでの間について申出可
	所定外勤務の免除	
	始業及び終業時刻の繰上げまたは繰下げ	
	時間外勤務の制限	子女が中学校に入学するまでの間について申出可
	深夜勤務の制限	
介護	看護休暇	半日単位で取得可
	短時間勤務	対象家族1名につき通算1年まで申出可(注)
	フレックスタイム	1回につき1年以内で、何度でも申出可(注)
介護・私傷病	介護休暇	半日単位で取得可
	シックリープ(失効年休の積立制度)	私傷病及び家族の介護のために失効年休を最大30日まで利用可(有給休暇扱い)

(注)介護休業期間とは通算しない。

労働安全衛生活動



www.takenaka.co.jp/enviro/vision/04



WEB掲載コンテンツ

多様な人材

■ 女性活躍促進の現況

明日を担う人材の育成

- 育成体系
- グローバル人材育成の現況
- 竹中優良職長制度の強化継続

ワーク・ライフ・バランス

- 次世代育成支援活動の現況
- 労働時間短縮のための取り組み

安全と健康

- 健康ケア制度
- 労働災害防止対策の徹底

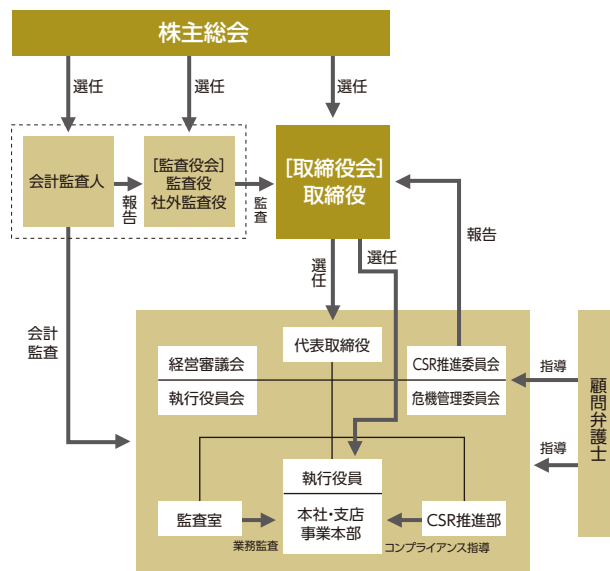
当社は企業理念のもと「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得て、企業としての社会的価値を高めていくとともに、企業としての社会的責任を果たしていきます。そのために、事業活動を公平かつ効率的に行うとともに幅広いステークホルダーとのコミュニケーションを行い、取り組み状況を定期的に評価し改善していくことができる体制・仕組みづくりを推進しています。

組織統治

経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関として、取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催しています。また、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図るため、2010年より執行役員制度を導入しています。これに加え、会計監査法人より、独立監査人としての公正・不偏的立場から監査を受けています。また、内部監査組織として監査室を置き、会社の業務、会計及び財産の実態について、正確性・妥当性の確認を行っています。内部統制については、内部統制基本方針に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避・軽減及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発・訓練を実施しています。また、グループ会社に対して、当社に準拠した企業行動規範の制定を指導し、グループ各社の管理体制を整備しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR・コンプライアンス体制を構築し、啓発活動を実施

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、CSR推進分担役員を委員長とするCSR推進委員会とその下部組織でコンプライアンス分担役員を委員長とするコンプライアンス専門委員会、更に支店CSR・コンプライアンス委員会を設置しています。また本社にCSR推進部を設置し、各事業所にCSR・コンプライアンスリーダーを任命して、教育・啓発の推進役としています。加えて当社内、グループ会社、協力会社・作業員などからの相談・通報窓口を複数設置するなど、CSRに関する意識の向上とコンプライアンスを徹底する仕組みを維持・拡充しています。

CSR・コンプライアンスに関する具体的な教育・啓発活動としては、社内外の身近なCSR・コンプライアンス問題を取り上げる「CSR・コンプライアンスニュース」を2009年からほぼ月に1度、全従業員に配信しています。

更に、毎年11月に実施していた「コンプライアンス月間」を2013年に「CSR・コンプライアンス月間」と改称し、社長メッセージの発信をはじめ、様々なイベントを集中的に実施しました。社外講師による「CSR役員セミナー」の開催、コンプライアンスに関する50問の「e-クイズ」によるセルフモニタリングの実施、セクシュアルハラスメントをテーマとした「e-ラーニング」「寸劇及びCSR・コンプライアンスミーティング」の実施、社内外にまたがる各種相談・通報制度の周知などが主なものです。こうした活動を繰り返し行い、グループ会社やサプライチェーンへ展開することにより、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の深耕と拡大を図っています。



CSR役員セミナー



CSR・コンプライアンスミーティング

危機管理

情報セキュリティ対策を継続して推進

当社はお客様の大切な情報資産を守るため、情報セキュリティ対策を実施しています。2013年度は、情報セキュリティルール遵守意識の向上策として従業員向けにe-ラーニングを実施しました。また、内勤・作業所におけるセキュリティ対策の点検、当社グループ会社及び取引会社の意識向上を図るための集合教育やセキュリティ巡回を実施しています。2014年度も情報セキュリティ対策を継続して推進し、強化を図っていきます。



BCPに基づき、自然災害などにおける被害の最小化への取り組みを継続

当社は首都圏直下型地震、東海地震及び東南海・南海地震を想定したBCPを策定しています。各本・支店に設置する対策本部を中心として、従業員・家族の安否確認、作業所・自社施設に加え、当社施工建物の被災状況確認及び復旧対応などを全社的に行うものです。2013年11月には、南海トラフ沿いに広域で大きな被害が予想される南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.1、最大震度7）を想定した合同震災訓練を実施しました。当日は当社全従業員にグループ会社16社も含め、約11,000名が参加。グループの総力を結集して従業員・家族の安否確認、津波被害への対応、徒歩帰宅訓練、作業所・自社施設と当社施工建物の被災状況確認及び復旧対応などの初期対応を行い、当社のBCPを更に周知することができました。今後も継続的に厳しい条件を想定した訓練を実施していくことでBCPのスパイラルアップを図り、有事の際の具体的な行動につなげていきます。



合同震災訓練実施風景

公正な事業慣行

関係法令の改正内容を周知・徹底し、建設業法遵守への取り組みを継続

法令遵守に基づいた適切な企業活動を実践するため、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。2013年は国土交通省及び日本建設業連合会の指針を受け、引き続き社会保険未加入問題に対して協力会社などに周知・徹底を図るとともに、未加入会社などへの指導を行いました。また、国の定める「建設業取引適正化推進月間」（11月）に併せて、作業所における建設業法、特に2013年は社会保険加入状況の確認及び、不法就労者問題について適切にフォローしていることを期間を設けて確認し、全社に適切に取り組むよう周知・徹底しました。

適正な調達に向けた取り組みと、反社会的勢力への対応

企業が果たす社会的責任の一環として、“お取引先と一体となり社会・お客様のニーズに応える調達を推進する”とした「調達方針」及び「活動指針」を取引会社に説明するとともに、調達分野における明確な方針に基づいた活動を継続して展開しています。反社会的勢力に対しては、従来から実施してきた作業所における対策協議会に加え、工事施工に関する取引先だけでなく、経費関連の取引先も含めて暴力団排除条項覚書の締結を行うとともに、幅広く情報共有して水平展開を図るなど反社会的勢力との関係遮断を徹底しています。



全地区竹和会総会で調達方針・活動指針を説明(2013年2月)

竹中グループCSRビジョンの実践のために、
国内外のグループ会社で企業行動規範を定め、CSR推進活動を進めています。
また海外現地法人では、各国・地域の文化や慣習にも配慮した活動を推進しています。

国内グループ会社の活動

朝日興産

地球環境

● 最適な緑化の推進

朝日興産では、自社開発の緑化技術と自社で保有する商品知識・施工管理技術を組み合わせ、建物の立地条件に合った最適な緑化を推進しています。2012年に東京ビッグサイトで開催された「環境展」に樹木対応型壁面緑化/パネル(パーティカル・フォレスト[®])を出展。社会的認知度を高め、壁面緑化としては日本最大規模となる「味の素スタジアム改修工事」での施工を行いました。その後も2013年の東京国体に彩りを添えたほか、各地で採用実績を増やしています。このパネルは低木から中木まで様々な樹種に対応でき、建物のCO₂削減などに貢献するとともに、四季折々の色彩豊かで意匠性の高い「緑」の演出を実現します。



御堂ビルの壁面緑化

裏磐梯高原ホテル

地域社会

● 地域との交流

裏磐梯高原ホテルでは、年間を通じて様々なイベントを開催し、地域との交流を深めています。2013年3月には「雪の結晶展『中谷宇吉郎と吉田六郎』」を開催しました。「雪の結晶の不思議と魅力」をテーマに講師として神田健三氏(中谷宇吉郎 雪の科学館館長)を招き、中谷宇吉郎博士の研究内容の紹介や雪の結晶が形成される過程がわかる実験を行い、参加者に体験していただきました。5月には、中村征夫写真展「五色沼の神秘」を開催。中村氏ご自身による「五色沼の神秘」講演会も併せて行い、五色沼湖沼群の静寂で神秘的な水中写真の撮影エピソードや謎に満ちた植物の生態などを講演いただきました。イベント当日は、周辺地域の子どもたちも含め、多くの来場者でにぎわい、交流を深めることができました。



ホテルからの磐梯山の眺望

東京朝日ビルド

地域社会

従業員

● 震災復興支援活動への参加

千葉大学工学部の安藤先生と学生らによる震災復興支援活動に参加し、型枠廃材を有効活用した「番屋」を製作し、宮城県仙仙沼市唐桑地区のわかめ漁師の皆様へ1棟提供しました。続く2棟目では、東北の冬の厳しい寒さを考慮し、扉を追加するなどの改善を図り提供しました。本来、処分される型枠廃材を被災地のニーズに合わせたかたちに変えることで、被災地の皆様のお役に立てたと考えています。

● 現場主義を重んじた独自の人材育成の展開

東京朝日ビルドには、長年のノウハウを盛り込んだオリジナルの人材育成プログラムがあります。入社1年目に富士教育訓練センターでの技能訓練と資格取得研修があり、その後も12年間の長期に及ぶ育成プログラムを設定しています。特に現場主義を重んじ、内・外勤や幹部・若手社員が一体となったOJT研修に力を入れるとともに、資格取得の啓発促進、建築技術・技能の向上を目指しています。



中堅社員研修の様子

アサヒファシリティズ

地球環境

お客様

● 建物価値向上への貢献

アサヒファシリティズは、全国で管理するお客様建物のエネルギー使用状況を統計的に把握するとともに、建物用途ごとのエネルギー管理ノウハウを蓄積し、日常の管理業務に反映することで地球環境に貢献する、省エネルギー活動を行っています。学校施設では、開校当初よりお客様と一体となった省エネ活動を推進。2011年に発生した震災後の節電要求に対しても、管理ノウハウを活かして施設利用者の快適性を損なわない節電計画を実施した結果、電力量削減目標を達成することができました。また、美術館の省エネ活動では、展示物に影響を与えない高度な温湿度管理が不可欠となりますが、ここでも同社が保有するノウハウを駆使した設備機器運転の実施などにより、最適な展示環境の提供とともに、エネルギー使用量の削減も実現しています。



環境とビルの共生をサポート

VOICE

“インドネシア政府より感謝状受領” 同国は2004年・2005年に2度の大地震と津波に襲われましたが、当社はニアス島(スマトラ島から西へ約125Kmに位置)の6つの被災橋梁の復旧工事を手掛けました。度重なる土砂崩れで幹線道路が寸断され、首都ジャカルタから海路で資材を搬入するなどの大変困難な状況に遭いましたが、無事に完成させ、復興に貢献したことから同国公共事業省道路総局長より感謝状を頂戴しました。

株式会社 竹中土木
現在、PT.竹中土木
インドネシア現地法人代表
高木 正道



海外グループ会社の活動

インドネシア

地域社会

● 生徒の作業所職場体験を実施

インドネシア竹中では、ジャカルタ日本人学校中学部の2年生4人を招き、ジャカルタ近郊の「ホンダカラワン第2工場」作業所で、2012年から2年連続で職場体験学習を実施しました。学生は当社従業員から作業所の業務内容などの説明を受けた後、施工作業を見学し、続いて職人さんたちの指導のもと、鉄筋の結束作業やコンクリートの打設作業を体験しました。今後も学生に「建設業のやりがい」を知ってもらうとともに、進路や職業選択に活かしてもらう活動に取り組んでいきます。



鉄筋の結束作業を体験

タイ

地域社会

● タイでの地域貢献活動

タイ竹中では2008年以降、現地に根付いた企業を目指して、年一度の社員旅行の際に地域・環境貢献活動を実施しています。2013年は、毎年のように洪水に見舞われるアユタヤに近いアーントーン県の小学校で、生徒と一緒に校内の清掃・整備、校庭の壁や遊具のペンキ塗り替え、植栽など、教育環境改善のための奉仕活動を行いました。昼食に生徒の父母による炊き出しのタイ料理をいただいた後、午後からは子どもたちと一緒にミニ運動会を楽しみました。参加した社員は大いに盛り上がり、子どもたちの笑顔と元気な声に触れて、社員も活力をもらいました。今後も、この国の将来を担う子どもたちのために、教育環境改善活動を継続したいと考えています。



ペンキ塗り替え作業に挑戦



ミニ運動会の様子

ドイツ

地域社会

地球環境

● 環境建築への取り組み

日本に先駆けて建築における省エネルギー基準の義務化を導入しているヨーロッパの中でも、特にドイツでは率先してその基準の強化を進めています。2002年の施行以来2、3年ごとに改訂を重ね、より厳しくなっていく省エネルギー令により、建物の省エネ性能を証明しなければならないことに加え、09年に施行された再生可能エネルギー熱法により、一定割合の再生可能エネルギーや代替エネルギーの利用が義務付けられています。近年、ヨーロッパ竹中が設計施工している建物は全てこれらに合致しています。更に、より進んだ環境配慮を推進すべく、ヴェルナー・ゾーベック事務所やDSプランといったドイツ環境建築の第一人者であるエンジニアリング会社とも協業しながら、社会と環境に貢献できる一歩進んだ作品づくりを目指しています。



アマデテクニカルセンターランズフート全景

ハワイ

地域社会

地球環境

● 自然環境保護、地域コミュニティ発展のために寄付 -ポイプベイリゾート-

当社が開発し、所有しているハワイ州カウアイ島のポイプベイリゾートは、島内の自然環境保護と観光資源の充実を通じた地域コミュニティの発展のために、米国内における熱帯植物生態系の研究・保護・教育を行っているNPO団体 National Tropical Botanical Garden (以下NTBG)に寄付を行いました。NTBGは現在、ハワイ州及び米国本土に5つの植物園と3つの特定自然保護区をもち、合計約2,000エーカー、6万種の植物を保護・育成しており、今回の寄付はこうした活動に賛同したものです。将来にわたり同植物園と緊密な連携を続け、環境保護や地域コミュニティ発展のための活動をともに進めていきます。



植物園の内観

サステナブル社会の実現に向けた取り組みを推進するため、
「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員・協力会社」などのステークホルダーとの対話を行っています。
当社の事業との関わりが強い社会的課題をテーマとし、
それぞれの分野で活躍されている外部の有識者の方を招いて、
課題解決に向けた議論を行っています。
ダイアログで議論された内容はCSR推進委員会でも報告され、
経営及び事業へのフィードバックも行っています。

テーマ

将来の魅力ある建設産業とは ―建設技能者の視点から
2013年7月8日 於：東京本店

2013年は「将来の魅力ある建設産業とは―建設技能者の視点から」をテーマとし、
外部有識者として芝浦工業大学工学部建築工学科 蟹澤教授(写真上)をお招き
するとともに、当社と取引のある協力会社をもって組織される竹和会の会長及び
若手経営者の代表者と意見交換を行いました。
当日は午前中に都内の作業所を見学し、課題の共有化を図りました。その後、東京
本店に場所を移し、ダイアログを開始しました。最初に蟹澤教授より建設技能者に
かかる現状の課題や海外の事例について、ご講義をいただいたのち、協力会社
の建設技能者の高齢化、入職者の減少などによる技能者不足に対する持続的な
人材育成のあり方、年収の向上や社会保険加入など生活基盤の課題など将来の
建設産業を魅力的なものにするための今後の取り組みについて、活発な討議が
なされました。



テーマ

ダイバーシティ ―女性社員の活躍推進の視点から
2014年1月29日 於：東京本店

2014年第1回のダイアログは、ダイバーシティの中から、「女性社員の活躍推進」
について取り上げ、外部有識者として麗澤大学経済学部 木谷宏教授(写真上：左)
と帝人株式会社 日高乃里子人財部ダイバーシティ推進室長(写真上：右)をお招き
するとともに、当社女性社員6名、男性社員1名のステークホルダーと意見交換を
行いました。
当日は、最初に当社における女性社員の活躍推進状況について参加者で共有し、
更に木谷教授と日高室長より「企業における女性社員戦力化モデル」、「帝人グループ
における女性活躍推進の取組み」をご講義いただきました。後半は、ステークホル
ダーである社員の皆さんから業務を行う中で感じている課題や問題点を出してもら
うとともに、課題解決に向けて、具体的施策を検討していくうえでの方向性やキー
ワード、サジェスションを参加者で出し合うなど、活発な意見交換がなされました。



昨年は、「竹中サステナビリティレポート」に対して第三者意見
を執筆させていただきました。今年から、「会社案内」と「サステ
ナビリティレポート」が一体になってコーポレートレポートとなり
ました。事業自体の持続可能性と事業による社会の持続可能
性への貢献は表裏一体の関係になります。創業400年を超える
竹中工務店が、今後更なる400年の事業継続を図るためには、
社会自体の持続可能性が確保されることが必要となります。

新たに定められた「竹中グループメッセージ」は「想いをかたちに
未来へつなぐ」というものです。「竹中グループCSRビジョン」
においても、持続可能性の確保が位置づけられています。それ
を具体化するのが2050年に向けた「環境コンセプト」です。そこ
では、長期目標として、「2020年にネット・ゼロエネルギービル
リーディングプロジェクトの実現、2030年にネット・ゼロエネ
ルギービルの定着、2030年以降にネット・プラスエネルギー
ビルを目指します」と述べられています。一般的には、せいぜい
2階建ての住宅で、高価な太陽光パネルと蓄電池を組み合わせ、
ネット・ゼロエネルギーを実現できる程度ですが将来、大規模な
ビルのレベルで、ネットでエネルギー生産ができればまさに画期
的なことになります。都市全体でエネルギー生産ができれば、
再生可能エネルギー基盤の経済が実現することになります。

竹中工務店では、この構想を実現するための具体的な取り組み
も進められています。例えば、2013年度に環境省の競争的
資金を2件取得し、壁面外装材などに太陽光パネルを設置し
建物内に直流給電する仕組みの開発や、半屋外の省エネ
スペースで執務できるように誘導するシステムの開発(P30)
にも取り組んでいます。これらの取り組みがネット・ゼロエネ
ルギービルに結実することを期待します。

竹中工務店の報告書は、様々な活動の成果を関係者に伝える
という方向の報告書になっています。この報告書と、関連する
WEBページを見れば、竹中工務店が、財務的な業績のみならず、
実に様々な観点で社会的な業績をあげていることがわかります。
一方で、このような書き方の弱点として、達成できなかったこと
や今後の課題となっていることが見えにくくなるという点を

ご意見を受けて

倉阪先生には、昨年に引き続き、サステナブル社会の実現に
向けた私たちの取り組みに対する評価と貴重なご助言を賜り
ありがとうございました。
ご指摘にもありますように、このレポートを読んでいただく
ステークホルダーの方々に私たちの活動の成果だけでなく、
達成できなかったことや今後の課題についてもわかり易く伝え
るための工夫を行い、より信頼性を高めるよう改善に努めてま
いります。当社グループは、ステークホルダーの方々との対話

倉阪 秀史 氏

千葉大学大学院人文社会科学研究所教授。
1964年、三重県伊賀市生まれ。東京大学
経済学部卒業後、1987年から1998年まで
環境庁に勤務。1998年に千葉大学に移り、
2011年より現職。環境経済論、環境政策論。
著書に『政策・合意形成入門』『エコロジカル
な経済学』『環境政策論』『環境を守るほど
経済は発展する』など。



挙げることができます。できなかったことを書くことは、報告
書の信頼性を高めるために不可欠な事項だと考えます。

今回の報告書では、定点観測が必要という昨年のコメントを
踏まえて、財務・非財務ハイライト(P50)に、女性役付職人数、
休業4日以上災害率、施工時CO₂排出量原単位、建設廃棄物
最終処分比率、CASBEEのSランク、Aランクプロジェクト件
数・比率などについて、経年変化を掲載いただきました。関連
するWEBページでは、2013年度に休業4日以上災害率の数字
があがったため、様々な訓練を実施している状況が掲載され
ています。このように努力している状況を本文中でも見せて
いったほうが良いのではないかと思います。環境マネジメン
トシステムの運用の中でも3カ年の目標が定められています。
そのような短期・中期の目標が達成されているかどうかなど、
できなかったことを含めて、報告書や関連するWEBページに
記載すると、更にわかりやすくなると思います。

竹中工務店では、2025年を見据えた中長期的な成長戦略
の一環として、まちのライフサイクルの企画・計画、建設、
維持運営をキーワードに掲げています。これからの建設業は、
新築だけではなく、すでに建設されている建造物・構造物を
メンテナンスするという役割が大きくなっていきます。また、
分散的かつ安定的なエネルギー供給システムの構築も急務
です。今後、建設業が、維持管理やエネルギー供給も含めた
まちのトータルプランナーとして活躍していくことが、持続可能な
社会に近づく鍵であると確信しています。竹中工務店がその
トップランナーとして実力を発揮することを期待します。

を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現する
ことを示した「竹中グループCSRビジョン」を制定し、2014年
1月より運用を開始しました。「環境コンセプト」の改定も併せ、
よりビジョンの具体化に取り組んでまいります。
最後をお願いになりますが、今後の活動やレポート作成の参考
にさせていただくため、WEBにアンケートを設けております。
皆様の率直なご意見・ご要望をいただければ幸いです。

CSR推進部長 佐藤 経生

主な外部表彰

耐火木造部材の開発など
サステナブルな社会の実現に貢献する
木造建築への取り組み



第22回地球環境大賞
国土交通大臣賞(2013)

第一生命新大井事業所



第54回BCS賞(2013)
第5回サステナブル建築賞(2014)
第14回JIA環境建築賞 優秀賞(2013)
グッドデザイン賞(2012)

神戸松蔭女子学院大学



第23回BELCA賞 ロングライフ部門(2014)

長楽寺禅堂



第53回BCS賞(2012)
日本建築学会作品選奨(2013)
グッドデザイン賞(2013)
平成25年 日事連建築賞 優秀賞(2013)
第10回戸原義信賞 優秀賞(2011)

建築物の木造化・木質化による
森林サイクル活性化と省CO₂の実現
都心型バイオガスシステムの開発と商品化



平成25年度地球温暖化防止活動
環境大臣賞 技術開発・製品化部門(2013)

武田薬品工業 湘南研究所



第54回BCS賞(2013)
平成23年 照明普及賞(2012)
平成24年 エンジニアリング功労者賞(2012)

裏磐梯高原ホテル



第23回BELCA賞 ベストリフォーム部門(2014)
平成23年 照明普及賞(2012)

八事聖霊修道院アーノルド館



第27回空気調和・衛生工学会
振興賞 技術振興賞(2013)
平成23年 照明普及賞 優秀施設賞(2012)

梅田北ヤード共同企業体Bブロック



平成25年度3R推進功労者等表彰
国土交通大臣賞(2013)

帝京大学小学校



第54回BCS賞(2013)
第14回JIA環境建築賞(2013)

東京理科大学 神楽坂キャンパス



第23回BELCA賞 ベストリフォーム部門(2014)

梅田センタービル



第1回空気調和・衛生工学会
特別賞 リニューアル賞(2013)

今後の活動計画

2014年から2016年までの計画は以下のとおりです。

ステークホルダー 及び活動領域	2014年～2016年の主な活動計画
ステークホルダー共通	ステークホルダーとの対話による社会的課題の把握と事業活動を通じた解決の促進
地球環境 自然との共生 低炭素社会 資源循環 環境配慮活動の基盤	- 要素技術開発による多様な選択肢の確保やグループ内連携などによるスマートコミュニティの実現 - 省エネルギー設計、再生可能エネルギー利用の取り組みや要素技術の開発によるゼロエネルギービルの実現 - 地域・地球環境への負荷低減に対する積極的な取り組みによる持続可能な事業の基盤の強化
地域社会 社会貢献活動支援・地域交流 知識・技術の普及と発展 建築文化の継承と発信	「建築文化の発信と継承」「知識・技術の普及と発展」を軸とした各事業所における地域に密着した社会貢献活動の展開及び支援 - 財団法人の活動の継続支援と当社活動との連携強化 - サステナブルな「まちづくり」を目指し、「都市」や「まち」が抱える社会的課題の把握と解決の促進
お客様 品質の向上・ものづくりの実践 建物価値の向上 安全・安心・豊かさ	- お客様の事業活動へ最良のソリューションの創出と提供 - ものづくりの最前線での協力会社と一体となった品質のつくり込みによる品質の向上 - 建物とお客様の事業の安全・安心を確保する対応技術の開発・展開と総合BCP策定の支援
従業員・協力会社 多様な人材 明日を担う人材の育成 ワーク・ライフ・バランス 安全と健康	- 女性活躍推進など多様な人材の育成、活用促進 - 定年及び再雇用者の再就職支援など従業員への支援の強化 - 従業員のキャリア形成や能力開発の実施支援と「想」を活用した建設技能者研修などによる若手技能者の育成 - 社会保険加入促進や竹中優良職長制度の充実、生産性向上など魅力ある建設業の実現を目指した施策の展開 - 健康で豊かな生活のためのワーク・ライフ・バランスの推進 - 安全衛生管理活動の継続強化とメンタルヘルス、ハラスメント対応の促進
マネジメント 組織統治 危機管理 公正な事業慣行	- 内部統制の継続強化 - グループ各社の状況に応じた教育啓発活動を実施、指導によるグループ全体のCSR・コンプライアンス知識、意識の向上 - 情報セキュリティ方針とセキュリティレベルに応じた基準の整備と、それに伴ったサプライチェーンも含めた対策を実施及び関係者への教育啓蒙 - 災害発生時に備えた社内対応体制の整備と強化の継続 - 法令改正にタイムリーに対応した研修を実施による法的リスクの予防
グループ会社	- グループ相乗効果による付加価値を社会に提供するための事業間連携の強化 - 従業員の成長を促進し、いきいきと働くことのできる環境づくりとワーク・ライフ・バランスの向上

損益計算書・貸借対照表(連結) (百万円)

	第72期 2009	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013
受注高	1,053,100	825,084	929,542	1,004,492	1,214,335
売上高	1,175,915	1,055,498	976,612	998,381	1,020,956
営業利益	14,792	21,884	11,106	△1,369	11,525
営業利益率(%)	1.3	2.1	1.1	△0.1	1.1
経常利益	18,408	22,632	10,962	12,595	21,709
当期純利益	11,845	5,354	2,273	6,122	7,162
純資産	334,521	328,092	308,135	350,884	438,468
総資産	1,086,407	939,712	899,718	977,735	1,105,029

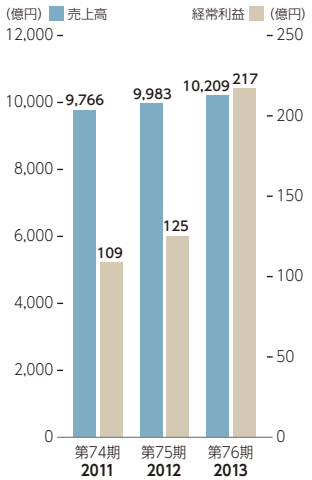
その他の財務データ(連結) (百万円)

	第72期 2009	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013
研究開発費	7,510	7,341	7,131	6,472	5,502
設備投資(億円)	104	96	55	99	263
自己資本利益率(ROE) (%)	3.6	1.6	0.7	1.9	1.8
営業活動によるキャッシュフロー	58,934	87,968	55,933	△10,610	△929
投資活動によるキャッシュフロー	△18,711	△11,733	△14,082	△9,275	△18,646
財務活動によるキャッシュフロー	△51,318	△62,873	△7,262	△5,792	8,294

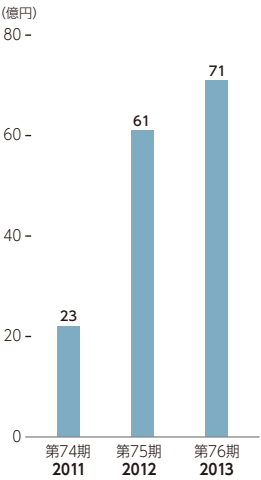
事業別売上高(連結) (百万円)

	第72期 2009	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013
建設事業	1,107,435	992,097	910,646	921,188	939,100
開発事業	36,580	31,701	32,627	42,206	45,929
その他	31,900	31,700	33,338	34,986	35,926

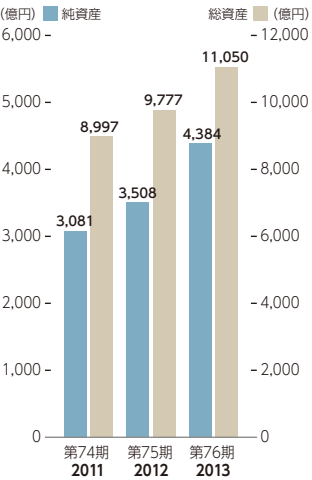
売上高／経常利益(連結)



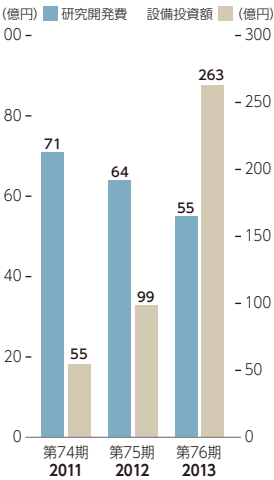
当期純利益(連結)



純資産／総資産(連結)



研究開発費／設備投資額(連結)



地域別売上高(連結) (百万円)

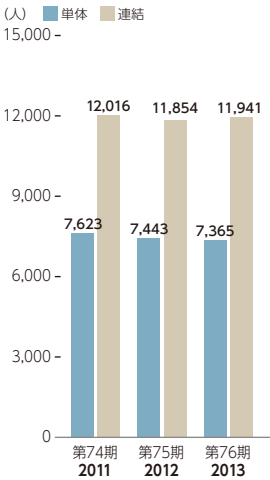
	第72期 2009	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013
日本	1,076,937	974,940	856,868	861,700	872,155
アジア	47,240	41,652	63,462	91,575	90,399
欧州	25,552	20,363	14,662	17,274	25,260
北米	15,037	10,213	11,995	17,493	23,289
その他	11,147	8,328	29,623	10,337	9,851

非財務データ(単体)

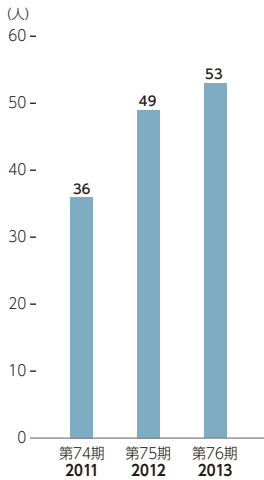
	第72期 2009	第73期 2010	第74期 2011	第75期 2012	第76期 2013
従業員数(人) (連結)	8,065 (12,525)	7,829 (12,176)	7,623 (12,016)	7,443 (11,854)	7,365 (11,941)
従業員平均年齢(歳)	45.1	44.7	44.6	44.6	44.5
平均勤続年数(年)	21.2	20.6	20.5	20.4	19.5
女性役付職人数(人)	22	25	36	49	53
度数率 (休業4日以上災害)※1	0.96	0.83	0.75	0.62	0.75
施工時CO ₂ 排出量 原単位(t／億円)※2	10.3	10.9	10.0	10.4	10.3
建設廃棄物最終処分率 (重量%)※3	4.6	9.1	3.4	4.2	3.9
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%)※4	54.4	64.3	56.0	60.9	69.0

※1 100万延労働時間あたりの休業4日以上の労働災害による死傷者数の割合。
※2 施工高あたり。
※3 建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない。
※4 SランクおよびAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト。

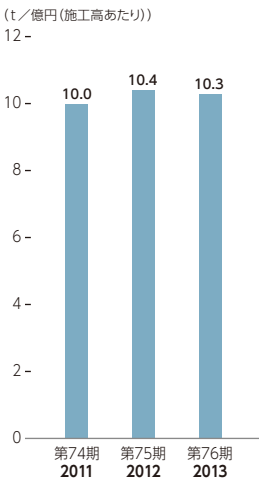
従業員数(単体・連結)



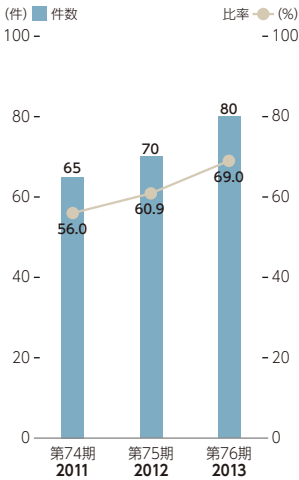
女性役付職人数(単体)



施工時CO₂排出量原単位(単体)



CASBEE S・AランクPJ件数／比率(単体)





株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北 海 道 支 店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東 北 支 店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東 京 本 店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横 浜 支 店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東 関 東 支 店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北 関 東 支 店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名 古 屋 支 店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大 阪 本 店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京 都 支 店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神 戸 支 店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四 国 支 店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広 島 支 店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九 州 支 店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国 際 支 店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開 発 事 業 本 部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

www.takenaka.co.jp



FSC®認証紙と大豆油インキ(Non-VOC)を使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。

Cat.No.010001 1801404CA